

# Books from German Tsing-tao: Assets of the Great War in Japan.(remaining part)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/9736">http://hdl.handle.net/2297/9736</a>

# 獨逸租借期青島所藏書籍目録: I(結)

㊦序 <small>前號既収録</small> ㊦凡例 <small>前號既収録</small> 『函獲書籍及圖面目録』凡例 <small>前號既収録</small> (全)い・官有書籍(洋書)目録 <small>前號既収録</small> (全)ろ・官有書籍(漢書)目録 <small>前號既収録</small> (全)に・德華高等學堂藏書(漢籍)目録 45-58頁 (全)へ・支那其他東洋ニ關スル書籍(洋書)目録 <small>副愛</small> ㊦「補註」 <small>前號既収録</small>	㊦所用略號・引用論著目録(當號収録部分のみ) <sup>*1</sup> <small>前號既収録</small> ㊦獨逸租借期青島所藏書籍目録 <small>前號 37-158頁+當號 21-67頁</small> (全)目次 <small>前號既収録</small> (全)正誤表 <small>前號既収録</small> (全)官有書籍(洋書)追加目録 <small>前號既収録</small> (全)は・德華高等學堂藏書(洋書)目録 21-45頁 (全)ほ・ウエルヘルム・コーン叢書(洋書)目録 59-67頁 (全)と・膠州圖書館藏書(洋書)追加目録 <small>前號既収録</small> ㊦「追記」 <small>67-76頁</small>
--	---

持井 康孝  
古市 大輔  
Sylke Scherrmann

(承前)

は- 1-

## 德華高等學堂藏書[洋書]目録(乙ノ部ト稱ス)

### A. 政治・法律・經濟

#### (一) 政治

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
三九一	マイヤア	支那政府一覽	一八七七	英
三九九	シユリムバツハ	政治上算術	一九〇二	□
四四七	コルデキエ	支那外交史(二八六〇年ヨリ 一九〇二年ニ至ル)	一九〇二	佛
四六五	ゲオルグマイヤア	獨逸行政法 第二編	一八九四	□
七六三	フライナア	獨逸行政法	一九一一	□
七六四	ローレンツ	官吏必携	一九一一	□
七六五	ハイネマン	普魯西官吏法	一九〇九	ハ
九五四	ミュンスタアベルグ	支那の改造	一八九五	□

は- 2-

#### (二) 法律

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
三七三	ヘルウキヒ	法力の實體及其主觀的限界	一九〇一	□
三八五	シメオン	獨逸帝國の法律及訴訟手續 第一卷	一九一三	□
四一七	ヘルウキヒ	獨逸民事訴訟法系統 第一編	一九一二	□
三三三	ネルデケ	民事訴訟及強制執行法	一九〇九	□
二〇七(1)	ストエルツエル	民法適用指針 第一卷	一九〇九	□
全(2)	全	全 第二卷	一九〇六	□
五六〇	クレート	民法中農夫須知事項	一九〇八	□
四二一(21-5)	ジャクミン	國際法及比較法學 <small>自一九〇六年 至一九〇九年</small>	一九〇六 一九〇九	佛四五册

\*1 此處に所謂“當號”とは前號(持井・古市・Scherrmann 2007.)のことを指す。尚、本稿に於て新たに引用した論著に就ては、本稿末尾の㊦「追記」(◆語句の訂正: 67-8頁)に於て追加収録したので、請併照。

一九六	コーラア	國際法及聯邦法雜誌 卷一	一九〇七	□
五六一	デュットマン	廢兵保險法講義	□	□
一六〇	ワグナア	海上法	一九〇六	□

は- 3-

一七九	ユルマン	法行爲・公文書論	一九一〇	□
七六六(1-3)	ビーヤクング	法理論 自第一編至第三編	二八九四 二九〇五	三册
七六七	商務印書館	德國六法	一九一三	(支)
七六八(1-4)	ビンディング	獨逸憲法 第一卷	一九〇九	同一書 四册
七六九	コーラア	國際法及聯邦法雜誌 第三卷	一九〇九	□
七七〇	シュツフアー	民事訴訟法概要	一九一〇	□
七七一	シュタイン	民事訴訟法	一九〇七	□
七七二	デュットマン	廢兵保險法	一九〇〇	□
七七三	アルント	普魯西普通鑛山法	一九〇九	□
七七四	□	國際法招會 第二十八回會議報告	一九一四	(英佛)
七七五	海軍省	國庫規定	一九〇八	□
七七六	ロージン	普魯西に於ける警察命令權	一八九五	□

は- 4-

七七七(1-3)	ホルツハウア	支那人用法政一斑 B編 第[ ] 司法制度 第一部	一九一二	同一書 三册
七七八	青島特別高等 專門學堂法政科	中德法律彙覽 第八編[ ] 裁判所構成法	一九一二	(支)
七七九	海軍省	膠州殖民地行政に關する諸規定	一九〇三	□
七八〇	膠州總督府	膠州總督府一般規定	一九〇九	□
七八一	モール	膠州殖民地諸規定便覽	一九一一	□
七八二(1-2)	海軍省	海軍衛戍建築物規定	一九〇九	同一書 二册
七八三	コーラア	法律及經濟哲學研究錄 第二卷[ ] 二九〇八	一九〇九	□
七八四	ツエーンタア	保險契約に關する帝國法律	一九〇八	□
七八九	バツペンハイム	海上法提要	一九〇六	□
九五六	マイヤア	獨逸行政教程 第一編[ ] 一般學說 內政	一八九三	□
九五七	アンシュツツ	國家法と行政法の問題	一九一一	□
九五八	全	普魯西內政構成法	一九〇八	□

は- 5-

九五九(1-2)	キツシュ	獨逸民事訴訟法 第一卷 第二卷	二九一〇 二九一〇	二册
九六〇	□	民事訴訟法並に裁判所構成法	一九〇九	□
九六一	ホフマン	工業傷害保險 第三卷第一編	一九一一	□
九六二	コーラア	國際法及聯邦[法?]雜誌 第二卷	一九〇八	□
九六三	ハイマン	國際法及比較法學 一九〇四年號	□	(佛)

(三) 經濟

〔假 番 號〕	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註 記
四三三	ヒンリクセン	原料検査法	一九一二	□

三四一	リ、エンタール	工場組織[:]	工場簿記法及原價計算法	一九一四	□
七八五	ヨエステイング	經營學國家論及經濟論 第一卷[:]	經營學	一九一〇	□
七八六	ハーン	世界の經濟		一九〇〇	□
七八七(1-2)	大藏省	日本財政及經濟年報 第十一年 第十二年		二九二二	二册

は- 6-

九六四	ヨエステ[イ <sup>2</sup> ]	營業學國家學經濟學 第二卷[:]	國家學及經濟學	一九一〇	□
-----	-----------------------	------------------	---------	------	---

## B. 軍事

番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註
三二六	海軍省	海軍々人制規類集	一九〇六	□
一九九(1-2)	全	二九二〇年海軍會報	二九一〇	二册
九五〇	シエルツエ	陸軍測量法	一九〇三	□

## C. 宗教・哲學・教育

### (一) 宗教

假 番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註
二一(1-3)	オットラヴン	オットラヴン 共編 シユライヤアマツヒヤア全集拔萃 卷一 卷三 卷四	二九一〇	三册
五一	エルンストツレルツ	系統的基督教	一九〇九	□
五二	エリウスウエルイウゼン	基督教沿革	一九〇九	□

は- 7-

五八(1-6)	グルート	支那宗教系統 自第一至第六	皇一九二〇	六册
七八八	聖書公會	新舊約聖書	一九一二	(支)
七八九	ガイルス	佛國記	□	(英)

### (二) 哲學

假 番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註	
一二(1-6)	フリッツメデイクス	フキヒテ全集 自卷一至第[第卷 <sup>2</sup> ]六	(二九二二 一九〇八)	六册	
一八(1-3)	オット ワイス	シエリング全集 拔萃 卷一 卷二 卷三	一九〇七	三册	
一五四	ウキンデルバンド	近世哲學史 卷二	一九〇七	[* <sup>2</sup> ]	
一五五	〃	哲學史	一九〇七	[* <sup>2</sup> ]	
五一六(1)	ロルフエス	哲學叢書 第二卷[:]	アリストテレスの形而上學	一九〇四	[* <sup>2</sup> ]
〃(2)	〃	〃 第三卷[:]	〃 第二編	〃	[* <sup>2</sup> ]
〃(3)	ブツセ	〃 第四卷[:]	アリストテレスの精神論	一九一一	[* <sup>2</sup> ]
〃(4)	ロルフエス	〃 第五卷[:]	アリストテレスのニコマクス倫理	〃	[* <sup>2</sup> ]

は- 8-

九六五	キルヒマン	〃 第十卷[:]	アリストテレスの斷定論	一八七七	[* <sup>2</sup> ]
-----	-------	----------	-------------	------	-------------------

\*2 “哲學叢書ト哲學文庫トハ同一ノ種類ナリ。其卷號ハ前後シ居レドモ存在セルハ左ノ卷ナリトス[:]

2,3,4,5, 7,8,10,11,12,13,15,16,17,18,20,21,22,23,24,25,26,26a,27,28,29,30,31,32,33,34,35,36,66,69,70,71,72,73, 76,78,79,85,86,87,88,89,90,91,92,93,94,95,96,98,100,101,102,103,104,107,108,124,125”(一五四[は- 7]- 五一六(19)[は- 11-]の註部に填記)。

九六六	〃	〃 第十二卷[:]	立證法	一八八二	[* <sup>2</sup> ]	
九六七	〃	〃 第十三卷[:]	詭辯[辨辯]的否定法	一八八三	[* <sup>2</sup> ]	
九六八	〃	〃 第十五卷[:]	第一[:]	分拆[拆析]論註釋	一八七七	[* <sup>2</sup> ]
九六九	〃	〃 第十六卷[:]	第二[:]	〃	一八七八	[* <sup>2</sup> ]
九七〇	〃	〃 第十七卷[:]	立證法註釋	一八八三	[* <sup>2</sup> ]	
九七一	〃	〃 第十八卷[:]	詭辯[辨辯]的否定法註釋	一八八三	[* <sup>2</sup> ]	
九七二	ラツソン	〃 第二十一卷[:]	ギオルダノ プルノの原因原理及一に就て	一九〇二	[* <sup>2</sup> ]	
九七三	キルヒマン	〃 第二十二卷[:]	キケロの五書[:]	最高の善惡	一八七四	[* <sup>2</sup> ]
九七四	〃	〃 第二十三卷[:]	キケロの三書[:]	神の本質	一八七四	[* <sup>2</sup> ]
九七五	〃	〃 第二十四卷[:]	キケロのアカデミイ論	〃	[* <sup>2</sup> ]	
九七六	ジヨーンソン	〃 第二十五卷[:]	コンヂラクの感覺論	一八七〇	[* <sup>2</sup> ]	

は- 9-

五一六(5)	ブーヘナウ	哲學叢書 第二十六卷[:]	デカルトの哲學 第一編[:]	方法論	一九〇五	[* <sup>2</sup> ]	
〃(6)	〃	〃 第二十六卷のa[:]	〃	第一編[:]	續編	一九〇六	[* <sup>2</sup> ]
				1.精神誘導の原則,2.自然の照明に依る眞理の探究			
〃(7)	〃	〃 第二十七卷[:]	デカルトの哲學 第二編[:]	原理に關する默想	一九〇四	[* <sup>2</sup> ]	
〃(8)	〃	[〃]	第二十八卷[:]	デカルトの哲學 第三編[:]	哲學の原理	一九〇八	[* <sup>2</sup> ]
七九二(1)	〃	哲學文庫 第二十九卷[:]	デカルトの哲學 第四編[:]	情熱	一九一一	[* <sup>2</sup> ]	
九七七(1-2)	キルヒマン	哲學叢書 <del>第三十二卷</del> [:]	グロチユスの戰爭と平和の權利	<del>第一卷</del> <del>第二卷</del>	二六六九	二册[* <sup>2</sup> ]	
九七八	ローゼンクランツ	哲學叢書第三十四卷[:]	ヘーゲルの哲學百科全書註釋		一八七〇	[* <sup>2</sup> ]	
九七九	パウルゼン	〃 第三十六卷[:]	ユームの自然教問答竝に自教自然及靈魂不滅に就て		一八九四	[* <sup>2</sup> ]	
九八〇	キルヒマン	〃 第六十六卷[:]	立法[法律]道德の根本觀念		一八七三	[* <sup>2</sup> ]	
五一六(9)	シヤールシユミット	〃 第六十九卷[:]	ライブニッツの人類悟性論		一九〇四	[* <sup>2</sup> ]	

は- 10-

五一六(10)	〃	〃 第七十卷[:]	ライブニッツの人類悟性論解説		一九〇八	[* <sup>2</sup> ]
〃(11)	キルヒマン	〃 第七十一卷[:]	ライブニッツ辯神論		一八九[九七]九	[* <sup>2</sup> ]
九八一	〃	〃 第七十二卷[:]	全上 註釋		〃	[* <sup>2</sup> ]
五一六(12)	〃	〃 第七十三卷[:]	ライブニッツの哲學小論文集		〃	[* <sup>2</sup> ]
七九二(2)	ウキンクラア	哲學文庫 第七十六卷[:]	ジョン・ロツク人類悟性の試験		一九一一	[* <sup>2</sup> ]
九八二	キルヒマン	哲學叢書 第七十八卷[:]	全上 註釋 第二部		一八七四	[* <sup>2</sup> ]
九八三	マイヤア	〃 第七十九卷[:]	ロツクの悟性の支配		一八八三	[* <sup>2</sup> ]
九八四(1-2)	ノアツク	〃 <del>第八十六卷</del> [:]	エリゲナ <small>の自然の分類</small>	<del>第一部</del> <del>第二部</del>	二六七〇	二册[* <sup>2</sup> ]
九八五	〃	〃 第八十八卷[:]	ヨハネス・スコツス・エリゲナ		一八七六	[* <sup>2</sup> ]
九八六	バツペンハイム	〃 第八十九卷[:]	エムピリクスのピロン派の特徴		一八七七	[* <sup>2</sup> ]
九八七	〃	〃 第九十卷[:]	全上 註釋		一八八一	[* <sup>2</sup> ]
九八八	キルヒマン	〃 第九十六卷[:]	スピノーザル <small>に宛てたる<sup>1</sup></small> 諸學者の書簡と其の回答		□	[* <sup>2</sup> ]

<sup>1</sup> 原文は“スピノーザルに宛てたる……”故、本來は“スピノーザル[九]に宛てたる……”とす可きなるも、翻刻者の技術的理由で表記の如くしておいた。

## は- 11-

九八九	キルヒマン	哲學叢書 第百卷[:]	スピノーザ著悟性改良論 註釋	一八七一	[* <sup>2</sup> ]	
九九〇	〃	〃	第百一卷[:]	スピノーザの書簡 註釋	一八七二	[* <sup>2</sup> ]
九九一	ドリユウス	〃	第百四卷[:]	シエルリングの <small>近代哲學史と經驗派哲學の説明</small>	一九〇二	[* <sup>2</sup> ]
五一六(13)	ブーヘナウ	〃	第百七卷[:]	ライブニッツ哲學原理論 第一編	一九〇四	[* <sup>2</sup> ]
〃(14)	〃	〃	第百八卷[:]	全 第二編	一九〇六	[* <sup>2</sup> ]
〃(15)	キルヒマン	〃	第九十八卷[:]	スピノーザ「デカルトの哲學思想」解説	一八七一	[* <sup>2</sup> ]
〃(16)	ゲブハルト	〃	第九十五卷[:]	スピノーザ 悟性の改良・國家	一九〇七	[* <sup>2</sup> ]
〃(17)	ブーヘナウ	〃	第九十四卷[:]	スピノーザ {(-)幾何學的根柢に立てる デカルトの哲學思想 (二)形而上學的思想	一九〇七	[* <sup>2</sup> ]
〃[#]						
〃(18)	ゲブハルト	〃	第九十三卷[:]	スピノーザ 神學的・政治的約束	一九〇八	[* <sup>2</sup> ]
〃(19)	ベーンシユ	〃	第九十二卷[:]	スピノーザの倫理	一九〇四	[* <sup>2</sup> ]
〃(20)	シャールシユミット	〃	第九十一卷[:]	スピノーザの神、人類及其幸福	一九〇七	[* <sup>2</sup> ]

## は- 12-

〃(21)	ユーバーウエヒ	〃	第二十卷[:]	「ベルクレイ」人類認識の原理	一九〇六	[* <sup>2</sup> ]
〃(22)	キルヒマン	〃	第三十卷[:]	フキヒテあらゆる天啓に對する批判の試み	一八七二	[* <sup>2</sup> ]
〃(23)	ラツリン	〃	第三十三卷[:]	ヘーゲル 哲學的科學全書	一九〇五	[* <sup>2</sup> ]
〃(24)	リヒタア	〃	第三十五卷[:]	ユームの人類悟性の研究	一九〇七	[* <sup>2</sup> ]
〃(25)	トウエステン	〃	第八十五卷[:]	シュライヤアマツヒヤアの哲學倫理一般	一九一一	[* <sup>2</sup> ]
〃(26)	キューネマン	〃	第百三卷[:]	シルレルの哲學的論文及詩	一九一〇	[* <sup>2</sup> ]
〃(27)	ラツリン	〃	第百二十四卷[:]	ヘーゲルの法理學	一九一一	[* <sup>2</sup> ]
七九二(3)	アスムス	哲學文庫 第百二十五卷[:]	ダマスキオス 哲人インドロスの生涯	一九一一	[* <sup>2</sup> ]	
五一六(28-29)	キルヒマン	哲學叢書 第七卷[:]	・第八卷[:]	アリストテレスの政治論	一八八〇	[* <sup>2</sup> ]
〃(30)	〃	〃	第十一卷[:]	アリストテレスの第二分析者 一名認識論	一八七七	[* <sup>2</sup> ]
〃(31)	リヒタア	〃	第百二卷[:]	ヒラスとフキロノウスとの對話	一九一〇	[* <sup>2</sup> ]
四三一	ヴント	論理學 第三卷[:]	精神科學の論理	一九〇八	□	

## は- 13-

六四九	フオーク	伯林大學東洋語學科報告 第十四卷附録[:]	王充論衡	一九一一	(英)
七九〇	コペルツ	希臘の思想家 第二卷		一九〇三	□
七九一	アルテムシテネン	生存競争		一九〇九	□
七九三	バルト	社會學としての歴史哲學 第一編		一八九七	□
七九四	キューン	カーライル「勤勞」と「失望せざれ」		□	□
七五九五	スタニスラル・ガル	哲人朱熹と其學說竝に感化		一八九四	佛
九九二	ラング	因果問題 第一編[:]	因果・沿革	一九〇五	□
九九三	グムプロウキッツ	社會學綱領		一九〇五	□
九九四	オストワルト	日々の要求		一九一〇	□
九九五	キンダアマン	近代國民生活の指導		□	□

## (三) 教育

[假番號 著譯者名 書 名 發行年代 註]

一三六	テツシュ	小學校全教科目教授法	一九〇一	□
三七八	シユーマン	教育學 第一編	一九〇四	□

は- 14-

三七二	ライン	教育學 第二卷	一九〇六	□
四二四	ホーマン	教育學 第二卷[:] 各科教授法	一九〇四	□
四六六	パウルゼン	教育學	一九一一	□
五六五	リツプス	人世觀と教育理想	一九一一	□
四八四	□	高等教員養成所	一九一〇	□
六四五	コエプケ	高等教育月報 第十卷	一九一一	□
七九六	リュムカア	植物栽培に關する北米の農事教育	一九一〇	□
七九七	シユミツド	自然科學教授	一九〇七	□
七九八	シユトエスナア	教育心理學	一九一一	□
七九九(1)	フオイグト	シユーマンの教育學 第一編[:] 總論	一九〇四	□
〃(2)	〃	〃 第二編[:] 教育心理學	一九〇五	□
八〇〇	ホルマン	丁抹の小學校	一九〇九	□

は- 15-

八〇一	オストワルド	教育難に就て	一九〇九	□
九九六	ライ	實驗教授法 一般篇	一九〇五	□

(四) 倫理

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
一八五(1-2)	クープロエル譯	禮記 第一卷[:]第二卷	一八九九	二册
四五二	〃	四書	一八九五	拉丁・佛
四五三	〃	書經	一八九七	〃
四五四	〃	詩經	一八九六	〃
八〇二	〃	〃	〃	〃

(五) 心理學

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
八〇三	ゼモン	記憶[臆憶]術	一九一一	□

D. 歴史・地理

(一) 歴史

は- 16-

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
四一(1-2)	リヒタア	獨逸中世史年代記 第三編第一卷・第二卷	二八九〇	二册
二〇一	ナホド	日本史 第一卷	一九〇六	□
四一九	シエツプ	周朝史	一九〇三	佛
四〇八(1-2)	アヴル	西安府に於ける西教碑	二九〇三	佛
四〇五	ルキ・ガイヤール	歴史上及地理上より見たる南京	一九〇三	佛

八〇四	プラート	支那古代史料	一八七〇	□
八〇五	ブレトシユナイダア	歴史参考書 第六編	一九一〇	□
八〇六	シエツブ	秦朝史	一九〇九	佛
八〇七	ケサダ	世界年鑑志	一九一〇	西
八〇八	アウル	成都佛教徒の墓碑に刻せられたる「天主」に就て	一九〇一	佛
九九七	マルテンス	高等師範學校用歴史教科書 第三卷	一九〇五	□
九九八	アツラア	歴史教授提要 第二編[:] 獨逸史	一九〇八	□

は- 17-

九九九	キュツパアス	ノエウキルの海豚(第一佛蘭西革命時代)	□	□
一〇〇〇	ゴツトヘルク	テルの息子	□	□
一〇〇一	キュツパアス	ヘルクスモンテ	□	□
一〇〇二	ガルテン	金の拍車(十三世紀中葉物語)	□	□
一〇〇三	ハース	佛蘭西の兒(獨立戦争時代)	□	□
一〇〇四	ケルナア	大詩人ワルタア(バルバロッサ帝時代)	□	□

(二) 地理

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
五七六	アブル	楊[楊揚]子江口崇明島	一九〇一	佛
五七七	アブル	安徽省	一九〇三	佛
八〇九	ハーク	地理學年鑑 第九年	一九一一	□

E. 文學・美術・音樂

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
一四七(1-2)	グロエバア	羅馬古文學一斑[一斑] 卷二ノ一, 及第二卷第三編	二九〇三	二册

は- 18-

四四九(1-2)	ブランデンブルグ	ダーマン・ワイツ獨逸古文書學及全補遺	二九〇六	二册
五六八	ラース	高等中學校用獨逸作文理論と材料 第二編[:] 材料	一八九四	□
四七	エーリヒ・シユミット	東洋文學史	一九〇六	□
四〇七	ペチヨン	文學上の隱語	一九〇九	佛
五七八	ガイヤール	支那に於ける十字型及方字型	一九〇四	佛
五七九	エチエンヌ	支那に於ける科學[學學]の實施	一八九四	佛
五八五	グローテ	東洋人文雜誌 第二卷	二九一二	□
八一〇(1-6)	フンケ	レツシグ作ミンナ・フォン・ベルンヘルレ[ヘルレハイム <sup>2</sup> ]	一九一〇	四一册
八一	ハウプトマン	アトランテイス	一九一二	□
八一	フオエルスタア	ヘルリヒ: 英國クラシツク作家 第二卷	一九一〇	英
八一	ネーリング	ヘルバースタインとヒルフフオーゲル	一八九七	□
八一	フルツク	詩歌集錦	一八九九	漢・獨

は- 19-

一〇〇五	マクゴワン	支那國民訓話	一九一〇	英
一〇〇六	ハーバーラント	東洋文學の主流 第二編[:] 波斯, セム及土耳其古文學	一九〇二	□
一〇〇七	マロルド	ハルトマン フォン アウエ、ウオルフラム フォン エツシ エンバッハ、及ゴツトフリード フォン ストラスブルグ詩集	一九一〇	□



一〇〇八	ボエツァイツヒヤア キニツェル	獨逸文學及言語史	一九一〇	□
一〇〇九	ハルテン	蛭[蛭蟋]蟀	□	□
一〇一〇	ピユツツ譯	ウキニフレツド	□	□
一〇一一	ヒルデン	アルダラの相續人	□	□
五五〇	フェルステンベルグ	遠景畫法初歩	一八八三	□
一八二	シャヴア[ンヌ]	支那の石彫	一八九三	□

## F. 言語學

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
四八	ウキラモウキツツ ヌレンドルラ	希臘及羅典文學及言語學	一九〇七	□
四九	ハイナリヒ[・]	チムマー ローマ文學及言語學	一九〇九	□
は- 20-				
五〇	ベツエンベルガー	東歐文學及スラブ言語學	一九〇八	□
四一一(1-2)	ヤコブ・グリム	獨逸文法 第三編・第四編	二八七八	二册
四一〇	ウイルマンズ	獨逸文法[:] ゴート, アルト, 中高及新高獨逸語 第三編	一九〇六	□
六九〇(1-14)	ラング・ザツハウ	伯林大學東洋語學科報告 自第一卷 第一編[:] 東亞研究 至第十五卷	一九〇〇 二九一二	缺卷第十三 卷 十四册
一〇一三	〃	全 第十三卷	一九一〇	缺卷ヲ 補ヘリ
六六九(1-13)	シユレーゲル コルディル	東洋研究通報 自第一卷第二號(佛) 至第二卷第八號	一八九一 一九〇七	缺 第一卷1, 8, 6 第二卷1, 7.
〃 (14)	〃	全 第一卷第一號(佛)	一九〇〇	補ヘリ
〃 (15)	ヒルト	全 第五號 補遺 支那書に據る イスラムの圖々	一九〇四	獨
〃 (16)	シユレーゲル	全 第一卷第六號	一九〇五	補ヘリ
〃 (17)	コルディユ[ユエ]	全 第九號 補遺 一八九五 - 九八年 支那語研究	□	佛
〃 (18-20)	シユレーゲル <sup>2</sup> コルディエ	全 第一卷第八號 第二卷第一號・第七號	一八九七 一九〇六	英佛獨 補ヘリ
六四七	シユレーゲル	シヤム語研究 東洋研究通報第二卷第二號 補遺(英)	一九〇二	□
は- 21-				
二〇二	ヂユリアン	支那書中梵語判讀法	一八六一	□
八一五	ベハーグヘル	獨逸言語史	一九〇五	□
八一六	ウント	言語史及言語心理學	一九〇一	□
八一七	ハーヘ	小學發音教授 第一編	一八九五	□
八一八	カウフマン	ゴート, 古, 中及新高獨逸語文法	一九〇九	□
八一九	ジープス	獨逸舞臺發音法	一九一〇	□
八二〇(1-3)	ウルフ	拉丁語讀本	一九一〇	同一書 三册
〃 (4-6)	〃	全 解説	〃	〃
八二一	ハンゲン	英語練習文庫 第二十三編[:] フライタツハ作「新聞記者」	一九〇八	□
八二二	マイヤフェルド	獨人と英人との言語及性質	一九〇三	□
八二三	ヒルト	支那文件字句入門	一八八八	英
八二四(1-2)	德華高等學堂	德華物理學語彙	一九一〇	同一書 二册

<sup>2</sup> 原文は“コルディユ……”故, 本來は“コルディユ[ユエ]……”とす可きなるも, 翻刻者の技術的理由で表記の如くしておいた。

八二五	侯官幾道嚴復	支那文英語文法	一九〇七	□
一〇一二(1-3)	ドヴェリクス	簡易外國語學自修書「アダミテイクス」	一九一四	三册

## G. 辭典

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
一六一(1-6)	オット・リユーガア	工藝百科辭典 自第一卷至第七卷	一九〇四	第四卷缺
一七一(1-9)	(カクマシユ)	工藝辭書 自第一卷至第九卷	二六六六	□
四四五	(マカシマ)	英獨工藝辭典 第一編	一八八二	□
四一六	セルドット	圖解 礦山辭典	一九〇七	□
一八六(1-4)	シユレーゲル	蘭支辭典 自第一卷至第四卷	二六九四	□
五八六	クロエツバア	英國實用百科辭典 第二卷	一八九九	□
八二六(1-4)	ドウデン	獨逸正語辭典	一九一一	同「書」 四册
一〇一四	カ	カ	一九〇九	□
八二七	ミーグ	蘭獨辭典	一八九九	□

## H. 自然科學

## (一) 一般

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
四八三(1-2)	ダンネマン	自然科學の發達及相互關係 <small>第一卷 第二卷</small>	二九一〇	二册
四五六(1-2)	アプダハルデン	自然科學研究の進歩 第六卷	二九二三	同二册
四六七	フェルトマン	森に於ける自然の友(自然科學)	□	□
四七七	ネルンスト	自然科學に於ける數學	一九一〇	□
二〇三	ダンネマン	世界大研究家著各學說拔萃	一九〇八	□
四四四	ダルムシテツダア	自然科學史及工藝史年表	一九〇八	□
五九二	プラスマン	自然科學年報 一九一〇 - 一九一一 第二十六卷	一九一一	□
八二八	ラインケ	自然科學講演集	一九〇八	□
八二九	デツカア	精神機能 第二編[:] 見る・嗅ぐ・味ふ	□	□
八三〇	マイヤア	唯物主義の崩壊	一九〇六	□

一〇一五	ラインケ	實在としての世界	一九〇五	□
一〇一六	メトナア	有機體と國家	一九〇六	□

## (二) 天文地文

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
一四九(1-3)	コーエン	氣象學 卷一・卷二・卷三	{二八九四 一九〇八 二九〇五}	三册
四九五	テイレ	獨逸農事氣候學	一八九五	□
四七五	ワルタア	陸と海	一九〇七	□
三五	ミルヒ	地文學原理	一八九九	□
三七六	ルードツキ	地相學	一九一〇	□

三一七(1-4)	エドワード・スエス	地相學 自第一卷至第三卷後編	□	四册
〃 (5)	〃	〃 名辭索引 自第一八八八 - 一九〇九發行	□	□
二〇四	ネーリング	現代及古代の沼澤竝に荒原	一八九〇	□
三七四	トウラ	地質學	一九〇六	□

は- 25-

四五(1-2)	ウーリヒ	ノイマイル地質史 卷一・卷二	二八九五 二八九七	二册
一六八(1-4)	考古學會	地質學叢書 自卷一至卷三(附圖)	二八八〇 二九〇九	四册
六九三(1-2)	ムルゴチ	世界地質報告 第一卷・第二卷	二九一〇 二九一一	二册
四二九	リンデマン	地球・地質に関する自然力 第一卷	一九一一	□
三九五	ホツゴスニルスカ	地震	一九一〇	□
四四一	ホワン	支那に於ける地震表	一九〇九	佛
六五三(1-2)	獨逸地質學協會	獨逸地質學協會月報(一九一〇年號)	一九一〇	□
八三一	ダンネマン	宇宙創造論	一九一二	□
八三二	ボエルンシユタイン	氣象問答	一九〇五	□
八三三	ベツバア	天候豫測法	□	□
八三四	ハース	火山	一九〇三	□
八三五	シユナイダア	地球に於ける火山的現象	一九一一	□

は- 26-

八三六	マウヒヤア	地質學教授法	一九〇七	□
八三七	墺國地質調査局	帝國地質調査局報告(一九一〇年度)	一九一〇	□
八三八(1-2)	獨逸地質學協會	獨逸地質學協會雜誌 第六十一卷[・]第六十二卷	二九〇三 二九二〇	二册

(三) 動物・植物・礦物

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
四二八	クラツス	動物學	一八八七	□
五七三(1-2)	ウエヒタア	動物學教授法 <small>第一編 脊椎動物 第二編 無脊椎動物</small>	一八九八 一九〇二	二册
四六三(1-2)	マイヤア	動物の地理的分布 第一卷・第二卷	一八七六	二册
三〇九(1-3)	オーツ	英領印度の動物 鳥の卷 <small>自第一卷 至第三卷</small>	一八八八	三册
〃 (4)	ブランフオード	全 爬蟲類の卷	□	□
〃 (5)	ブーレンジャア	全 哺乳類の卷	一八九五	□
〃 (6)	デスタント	全 昆蟲の卷 第二卷第一編[:] 椿象科	□	□
五五五(1-2)	ヂヤネ	交尾飛翔後女王蟻の胸甲振動筋肉の解剖附圖	二九〇七	佛 二册

は- 27-

五五六	ヂヤネ	昆蟲形態學	一九〇三	佛
三九二	コルベ	昆蟲學入門	一八九三	□
八三九	ツエル	動物界漫遊	一九〇六	□
八四〇	〃	動物に理性なきか?	一九〇三	□
八四一	ボエルシエ	動物の起源	□	□
八四二(1-3)	トン	動物學教科書 第一編[:] 人類	一九〇八	同三[册]
八四三	ツエル	駄[駝]鳥の話	一九〇七	□

八四四	フロエリツケ	異國の鳥類	□	□
八四五	デュリゲン	異國の飾魚	一八九七	□
八四六	フライシヤア	甲蟲類	一九〇五	□
八四七	フランセ	微細世界形成の價値	一九〇七	□
一〇一七	シユマイル	高等師範學校用動物學教科書	一九〇八	□

は- 28-

一〇一八	フロエリツケ	獨逸内地産魚族	□	□
一〇一九	〃	外國産匍蟲及兩棲類	□	□
一〇二〇	ウエルナア	動物界 第三[:] 爬行蟲と兩棲蟲	一九〇八	□
一〇二一	ヤコビ	動物地理	一九〇四	□
二四三	ジヨングマンズ	二九二〇年度太古植物學に關する著述一覽 第三卷	一九一三	□
四八一	クリユーガア	ペーレン植物學	一九〇五	□
四三九	ゲーベル	植物形態學	一八九八	□
八六(1-2)	ザツクス	植物生理學 第一卷・第二卷	二六九三	二[册]
三八九	クリスト	羊齒の地理的研究	一九一〇	□
三七一	キルヒナア	中部歐羅巴顯花植物生態史 第一卷ノ一	一九〇八	□
四九九	エツサア	植物學標本 第一編[:] 栽培	一九〇三	□
五〇〇	マイヤア	實驗植物學 第一編[:] 顯微鏡實驗	一九〇七	□

は- 29-

一五七(1-2)	ヨスト	植物學雜誌 第一卷・第二卷	一九〇九 一九一〇	□
二二七	ブレトシユナイダア	二八九四 - 英國亞細亞協會支那植物學 第三(第二十九卷) 二八九五年度 那支部雜誌特別號	□	□
八四八	フランセ	植物の感覺生活	□	□
八四九(1-2)	シユマイル	植物學	一九一二	同二[册]
八五〇	〃	植物學教科書	一九〇九	□
八五一	メツツ	木質腐蝕菌	一九〇八	□
八五二	マイヤー	植物性黴菌學實驗	一九〇三	□
八五三	フキツシユバツハ	森林植物學	一九〇五	□
八五四	ウキルヘルム	森林植物學小附圖	一九〇七	□
一〇二二	デイルス	植物地理	一九〇八	□
一〇二三	ラインエツケ	植物界	一九〇〇	□
一〇二四	デンネルト	植物の構造と生態	一九〇五	□

は- 30-

一〇二五	ミグラ	植物生物學	一九〇六	□
一〇二六	〃	水中植物界	一九〇三	□
一〇二七	ペーレンス	有用植物	一九〇〇	□
一〇二八	ネーガア	針葉樹	一九〇七	□
一〇二九	ピルガア	顯花植物の組織(裸花植物を除く)	一九〇八	□
一〇三〇	ブルツク	植物の疾病	一九〇七	□
一〇三一	コエルシユ	荒蕪地と沼地	□	□

一〇三二	〃	植物界に於ける暴虐者	〇	〇	
一〇三三	フェルシユ	花香しき沼湖	〇	〇	
一〇三四(1)	ミツルアラ	ラーベン氏獨塊西隠花植物 第六卷[:]	錢答[? 錢答蘇答?]	第十七輯 一九一三 〇	
〃	(2)	〃	〃	第十八輯 一九一四 〇	
〃	(3)	〃	〃	第十卷[:]	菌 第二百二十二輯 〃 〇

は- 31-

一〇三五	プフル	植物園の設備と利用	一九一〇	〇
三九〇	グロート	礦物一覽	一八九八	〇
四七一	ボエツトガア	シュワルベ礦物學及地質學	一九〇三	〇
四八五	グロート	博物學教師要覽「自然の研究」	一九〇四	〇
四八二	ブラウンス	フックス鑛物分析案内	一九〇七	〇
四七六	ブレンドラア	鑛物集 第一編	一九〇八	〇
四三二	ストイヤア	沈澱粘土學	一九一〇	〇
八五五(1-2)	ワインシエンク	礦物學 第一編[:]	總論・第二編[:]	各論 二九〇六 二[冊]
八五六	リンネ	實用礦物學	一九〇八	〇
八五七	エンゲル	重要礦物の種類	一八九六	〇
八五八	ゾムマーフェルト	結晶體	一九一一	〇
一〇三六	ノイマン	礦物學初歩	一九〇七	〇

は- 32-

(四) 物理・化學

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
五六七	ウキーデアン	ティンダル著「光」	一八九五	〇
五四一	ギーセル	放射物體及其放射線に就て	一九〇二	〇
八八	ヘルムホルツ	ティンダルの音響學	一八九七	〇
四九一	ジツミット	科學集 第二十七卷[:]	地上に於ける重量測定	一九〇八 〇
八五九	ヒルデブランド	クリューガア物理一斑[斑斑]	一九〇九	〇
八六〇	ホードレイ	一般物理學	〇	英
八六一	ワインホールド	物理論證	一九一三	〇
一〇三七	クライバア	中學校用物理教科書	一九一〇	〇
一〇三八	ゲナウ	物理學摘要	一九〇七	〇
一〇三九	ギヤニニツリエ	物理學階梯	一九〇八	佛
一〇四〇	マーラア	物理學法式集	一九〇六	〇

は- 33-

五六二	リムバツハ	物理化學的小實驗	一九〇九	〇
八六二	ブライトフェルド	物理化學教授要綱	一九〇八	〇
一〇四一	フツス	物理化學教科書	一九〇五	〇
四五一	リュプケ	化學一斑	一九〇二	〇
五七四	〇	實用化學	〇	〇
五五四	アーレンス	化學及化學工藝講義集 第十四卷	一九〇九	〇

四二六(1-5)	コルベック	プラットナア吹管試金術	一九〇七	同五[冊]
八六三	ブルーノ・ケル	吹管試験	一八六二	□
八六四(1-5)	スミス	實驗化學初歩	一九一〇	同五[冊]
一〇四二	アレニウユス	免疫化學	一九〇七	□
一〇四三	ラムセイ	高等瓦斯及放射能的瓦斯	一九〇八	□
一〇四四	ラーデンプルグ	通俗博物學講義	一九一一	□

は-34-

(五) 考古學・人類學・進化論

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
一〇四五	ホエルネス	考古學	一九一〇	□
一〇四六	シュロツサア	支那の化石哺乳動物	一九〇三	□
一〇四七	パウア其他	礦物・地質・考古學年報 第一卷第三號	一九〇九	□
六五二(1-2)	〃	全	一九〇九年號 一九一〇年號	二九〇九 二九一〇 二[冊]
六五二(3-5)	〃	全	一九〇九年號第二卷 一九一〇年號第一・二卷	〃 二[冊]
一〇四八	□	チューリツヒ博物研究協會年報	第四十一年 第二紀念號	一八九六 □
一〇四九	ヨングマン	太古植物學著述書誌	一九一一	□
一九七	バランスキ	有史以前	一八九七	□
四五七(1-2)	スタインマン	太古生物學入門	一九〇七	□
八六五(1-5)	フェリツクス	太古化石	一九〇六	同五[冊]
八六六	マルテイン	馬來半島奧地蕃民種族	一九〇五	□

は-35-

五七二	ツイスアン	血族發達に及ぼす絶縁の影響	一八七二	□
一四〇(1-6)	プレツツ	人種及社會生物學雜誌 自第一卷 至第六卷	一九〇四	六[冊]
四二二	ネーゲリ	機械的生理學的進化論學說	一八八四	□
三四	カール・オツト	直接順應論	一九〇四	□

[ I. 原 本 缺 録 ]

J. 數學・測量

(一) 數學

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
四二(1-3)	エルンスト シュロエダア	代數論理學講義(第一卷・第二卷・第三卷)	一八九〇 一八九五	一八九一 三[冊]
四六〇(1)	スタウダツヒヤア	「クライヤー」百科全書 代數四則	□	□
〃 (2)	〃	〃 第二編	一八九一	□
〃 (3)	クライヤア	〃 平面幾何學 第一・二編	一八八八	□
〃 (4)	ザイプ	〃 立體幾何學 第一編	□	□
九一(1-2)	フオグラア	實用幾何學 卷一・卷二	一八八五 一八九四	二[冊]

は-36-

四八〇	ガンタア	解析幾何學	一九〇六	□
四九〇	ハムマア	平面及立體三角術	一九〇七	□

四九三(1-4)	リッタア	畫法靜力學の應用	第一卷ヨリ 第四卷	一八八八 二九〇六	四[冊]
五七〇	ミュルラア	畫法幾何學初歩		一九〇三	□
四七八	ベルンハルト	畫法幾何學		一九〇五	□
五八一	キルシユケ	機械工藝用畫法幾何學		一九一〇	□
一五六	ライニツヒ	リーマン氏數學著述竝に遺稿集		一八九二	□
六三一	クレルレ	係數表		一九〇七	□
四六二(1-3)	ツーバア	生命保險等に於ける公算法	第一卷 第二卷	二九〇八 二九一〇	二[冊]
八六七	ポアンカレ	純數學及數理的物理講演		一九一〇	□
八六八	シエ[ユ]ロエダア	論理計算の分理		一八七七	□
八六九	ドエルブ	定量		一九〇八	□

は- 37-

八七〇	グロースマン	保險算術		一九〇二	□	
八七一	バルデイ	算術問題		一九〇九	□	
八七二	ウキツトシユタイン	初等數學 第一卷第一編[:]	算術	一八九五	□	
八七三	ドウルツクセス	ハイス[:]	普通算術及代數例題	一九〇九	□	
八七四	ピーツカア	バルデイ:	代數例題及解き方	一九〇三	□	
八七五	リュプセン	算術及代數教科書		一九〇六	□	
八七六	ドナト	リュプセン[:]	初等幾何學 第一編[:]	平面幾何學	一九〇九	□
八七七	ミュルラア	立體幾何學	平面圖法	一九〇三	□	
八七八	リュプセン	高等幾何學		一九〇八	□	
八七九	謝洪賚	初等三角形		一九〇七	支	
八八〇	グリンツアー	平面三角		一九〇七	□	
八八一(1-2)	コールラウシユ	微分積分學		一九〇七	同二[冊]	

は- 38-

八八二	ヘーゲマン	清算法		一九〇八	□	
八八三	シユロエダア	畫法幾何學		一九〇一	□	
八八四	シユロートケ	畫法幾何學		一九〇五	□	
八八五(1)	デラバール	製圖法 第一編[:]	幾何學的圖法	一九〇四	□	
〃 (2)	〃	〃	第四編[:]	極圖法及竝行圖法	一九〇五	□
一〇五〇	ビュルクレン	數學方式集		一九〇九	□	
一〇五一	〃	立體解析幾何問題集		一九〇六	□	
一〇五二	ハイス	算術代數例題集 第二卷		一九〇八	□	
一〇五三	マウラア	幾何學問題 第一卷		一九〇六	□	
一〇五四	リュプセン	平面及立體三角法		一九〇八	□	
一〇五五	シヨエンフリース	點の多樣變化論の發達 第二編		一九〇八	□	
一〇五六	シユツテ	畫法幾何學講義 第一編		一九〇七	□	

は- 39-

一〇五七	シヨエンフリース	幾何畫法本則解説		一九〇八	□
一〇五八	ミュルラア	平面幾何學的構造と畫法		一九〇九	□

一〇五九	ベツクラア	幾何畫法	一九〇五	□
一〇六〇	シユム	直線畫法	□	□

(二) 測量術

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
三七五	ジヨルダン	獨逸測量法 第一卷[:]	一八八二	□
四二五	ツアヂニツク	實用測量術	一九〇一	□
五八七(1)	エツカート	「ジヨルダン」測量學 第一卷[:]	一九一〇	□
〃 (2)	〃	〃 第二卷[:]	一九〇八	□
〃 (3)	ラインベルツ	〃 第三卷[:]	一九〇七	□
八八六	バウル	初等測量學	一八九五	□
八八七	ガウス	測量術に於ける計算	一九〇六	□
は- 40-				
八八八	ヘルツ	測量學	一九〇五	□
八八九	ガウス	土地區分の對數表	一九〇九	□
八九〇	フオグラア	測地練習	一九〇九	□
八九一	コル	測地術最小平方計算法	一九〇一	□
一〇六一	ツアーネン	測量・土地分割及水準法實用指針	一九〇八	□
一〇六二	シニェルツ デニエマン	數學技術對數表	一九〇八	□

K. 醫學

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
一〇六三	ドルステウキツツ	藥物學	一九〇八	□

L. 農業

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
四七二	ストレツカア	耕作法	一九一〇	□
六五〇	獨逸農作獎勵會	農作講習錄 第一卷	一九一一	□
三九四	アーレンス	農事應用化學	一九〇五	□

は- 41-

三九三	シエルレンベルガア	農事自然科學	一九〇六	□
五八〇	リツヒヤアト	地下水	一九一一	□
三六(1-3)	マツクス	農業著述に關する研究 <small>自第一卷 補遺 第三卷</small>	二八九三	三[冊]
三六四(1)	スタインブリユツク	農業全書 第二卷[:]	一九一一	□
〃 (2)	〃	〃 第二卷[:]	一九〇八	□
〃 (3)	〃	〃 第四卷[:]	一九一一	□
〃 (4)	〃	〃 追補第二卷[:]	□	□
〃 (5)	〃	〃 追補第三卷[:]	□	□
〃 (6)	〃	〃 第四卷[:]	□	□
〃 (7)	[〃 <sup>2</sup> ]	〃 [:]	一九〇九	□
〃 (8)	フアルケ	〃 第十九卷[:]	一九〇八	□



## は- 42-

一五三(1-2)	ブロマイヤ	農業利用植物の栽培 卷一・卷二	二八八九	二[册]
四八六	ボエツトナア	實用野菜栽培法	一九一一	□
一三七	ゴーレン	植物栽培原理	一八七七	□
五六九	ゴエテ	木虱	一九〇九	□
三八四	ワイツ	肥料としての智利硝石	一九〇五	□
五五八	シユナイデウキント	窒素原料及窒素肥料の使用	一九〇八	□
五五七	〃	優良地に於ける加里施肥	一九〇五	□
一五九	ゼツテガスト	農業及其經營	一八八五	□
六六八	クレーマア	農業研究録	一九〇二	□
四六八七	ストラウス	農業學講義法	一九〇四	□
四三〇	ヒルマン	獨逸農業の植物改良	一九一一	佛
四三四	ハルツ	農事種子論 第一卷	一八八五	□

## は- 43-

四九二	アルニシユタツト	模範農夫「フランツ・ノツク」	一九〇九	□
五四八	ローハウス	沼澤荒蕪地に於ける新耕作及牧羊牛	一九〇七	□
一九八	ドロープ	近代農業に於ける荒蕪地	一九〇一	□
一八〇(1-2)	ハンゼン	デイユプスホーフ農事試験場 第一報告・第二報告	二九〇八	二[册]
三三六	フエスカ	日本農業一斑[斑斑] 第二卷	一八九三	□
三九(1-3)	マモリツク	瑞西アルプ産業 卷一・卷二・卷三	一八九九	三[册]
五三七	ボルヒヤルド	高加索より: 第一編[:] 北「カウガズ」の農業	一九〇六	□
五四四	アウハーゲン	外「カスピヤ」の農業	一九〇五	□
五四〇	ボルヒヤルド	南部及中部露西亞の小麥作及其收益	一九〇二	□
五四三	〃	西南部及中部露西亞農事情	一九〇二	□
五四二	〃	ヴォルガの東部流域より	一九〇四	□
五四五	アウハーゲン	西伯利亞移住に就て	一九〇二	□

## は- 44-

五三八	シエツク	加奈太の森林	一九〇四六	□
五五二	ブルーチユケ	北米合衆國の農事機械	一九〇四	□
五五三	アウハーゲン	「シリキア」の地質及農業	一九〇七	□
五四六	ホフマン	丁抹・英國・愛蘭に於ける牧草及「クローバア」種子の栽培及取引	一九〇九	□
六五四七	〃	丁抹の牧草及「クローバア」種子業	□	□
六六七(1-5)	獨逸農事協會	獨逸農事協會雜誌 皇卷三十一	一九〇六	五[册]
三〇三(1-5)	〃	〃 年報 皇卷三十五	一九〇六 <sup>3</sup>	五[册]
六五一(1)	〃	獨逸農事協會事業 第二百二十八卷[:] 牧畜に關する新經驗	一九〇七	□
〃 (2)	〃	〃 第百十一卷[:] フアルケ乾草	一九〇五	□
三三(1-64)	ニツベア	農業研究書[?] 書所 <sup>2</sup> 農事試験場 自卷一至卷七六 但シ卷七・八・二五・二七・二九・三一・三三・三五・四六・四七・五九・六〇缺本	二八五九	□

<sup>3</sup> 原文上行は“一九一六”故、本來は“一九一[=〇]六”とす可きなるも、翻刻者の技術的理由で表記の如くしておいた。

## は-45-

一〇七七	インベ タルテア	農業研究書[?]書所?農事試験場 第七十八巻	一九一二	□
三三(65)	〃	全 第二十一巻 - 第五〇巻目録	一八九八	□
1[?] (1-11)	伯林 ツルツ行	殖民經濟會機關雜誌 熱帯農業雜誌 第二巻一・[?]第十五巻	皇一九〇八	十一[冊]
七七(1-3)	ワルブルグ	熱帯農業雜誌附録卷二 - 卷三	皇一九〇一	三[冊]
〃 (4)	ウオルトマン	「サモア」に於ける栽培及移住[:] 熱帯農業雜誌附録卷五	一九〇四	□
〃 (5)	ワルブルグ	熱帯農業雜誌附録卷六	一九〇五	□
〃 (6)	シャンツ	北米合衆國に於ける綿花[:] 熱帯農業雜誌附録卷九	一九〇八	□
〃 (7-8)	ワルブルグ	熱帯農業雜誌附録卷十・卷十一	一九〇九	二[冊]
〃 (9)	〃	「カメルン」の太古林[:] 熱帯農業雜誌附録卷十二	一九一一	□
〃 (10)	プロイス	熱帯農業雜誌卷十一附録[:] 「サモア」に於ける「カカオ」其他の栽培	一九〇七	□
二〇〇	ミュルラア	一九〇三年度栽培及牧畜年報 第一年	一九〇四	□
六九二	テイル	農學年報 第三八巻 増刊第五號	一九〇九	□

## は-46-

四〇一	ストラウス	農事教授の理論と實際	一九〇三	□
三九七	マイヤーボーデ	冬期農學校讀本	一九〇七	□
七一〇(1)	ルカス	冬期農閑夜話 第二編[:] 果樹栽培に就て	一九〇二	□
〃 (2)	〃	〃 第七編[:] 野菜栽培に就て	一九一〇	□
一〇七三	ツエーブ	〃 第八編[:] 牧草栽培に就て?	一九一〇	□
一〇七四(1-2)	ノイマン	〃 第十六編[:] 獨逸農業組合制度	一九〇一	同二[冊]
七一〇(3)	ホップフ	〃 第十九編[:] 鳥と農業	一九〇二	□
七一〇(4)	ツエーブ	〃 第二十編[:] 園藝に就て	一九〇〇	□
一〇七五(1-2)	ホルデフライス	〃 第二十五編[:] 小農經營法	一九〇三	同二[冊]
七一〇(5)	ホップフ	〃 第二十六編[:] 動物養護	一九〇六	□
〃 (6)	シュミツド	〃 第二十七編[:] 絹柳栽培法	一八九八	□
一〇八五	チツペリユス	〃 第二十八編[:] 農家馬匹飼養法	一九一〇	□

## は-47-

七一〇(7)	コエマア	冬期農閑夜話 第卅四編[:] 農事教師の日記より	一九〇九	□
〃 (8)	リンク	〃 第八十四編[:] 植物肥料の價値と利用	一九〇八	□
七一一(1)	ハーバーノル	農業教科書[:] 農業簿記法	一九〇八	□
〃 (2)	フンク	〃 [:] 農業沿革	一九一〇	□
〃 (3-4)	コンラデイ	〃 [:] 牧畜法	一九〇六	同二[冊]
〃 (5-6)	ロート	〃 [:] 農業經營法	一九〇九	同二[冊]
〃 (7-11)	ペトリ	〃 [:] 農業會計法	一九〇三	同五[冊]
〃 (12)	フンク	〃 [:] 經濟一斑	一九一〇	□
七一二(1)	ストレツカア	テール文庫[:] 農事器具器械	一九〇六	□
〃 (2)	ステブラア	〃 [:] 合理的牧草栽培	一九〇九	□
〃 (3)	ノワツキ	〃 [:] クローバ栽培法	〃	□
〃 (4)	ウエルナア	〃 [:] 馬鈴薯栽培法	一九〇六	□

## は- 48-

〃	(5-6)	〃	〃	[:] ウォルフの肥料學	一九〇四	同二[冊]
七一三		リユムカア	農業と科學		一九〇五	□
七一四		クール	農學校讀本		一九〇七	□
七一五		シュリツプ	農業提要		一九〇八	□
七一六		ワイツエル	モエルリン農家の一年		一九〇六	□
七一七		ハーン	耕耘沿革		一九〇九	□
七一八		〃	農事作業の濫觴		一九〇八	□
七一九		キースリング	穀物乾燥検査		一九〇六	□
七二〇		クラウス	大麥藁・燕麥藁の區分		一九〇五	□
七二一		シユーマツヒヤア	小作權		一九〇一	□
七二二		ギユンゲリヒ	農業簿記法		一九〇八	□
七二三		ホーワルド	農業簿記 第一卷		一九〇三	□

## は- 49-

七二四		イーネ	ヘツセン農業地圖		一九一一	□
七二五		ワイネク	近代農業に對する荒蕪地の價值		一九〇三	□
七二六		ワグナア	耕地の検査		一九一三	□
七二七		デムトシンスキ	苗地耕耘法		一九一一	□
七二八		ゾラウア	園藝植物生理學		一八九一	□
七二九		シエルレ	中部歐羅巴の非落葉針葉樹		一九〇九	□
七三〇		ベルガア	肉厚大戟		一九〇七	□
七三一		ツリンクワルタア	外國有用栽培植物		一九一〇	□
七三二		ゴエツエ	カンドイユ[:] 栽培植物の起源		一八八四	□
七三三		□	ケーニヒスベルグ大學農科大學報告		□	□
七三四		ウルリヒ	果樹栽培の彙		一九〇九	□
七三五		ゴエシユケ	生産的獨活栽培法		一九〇四	□

## は- 50-

七三六		フエスカ	熱帶及亞熱帶に於ける植物栽培 第三卷		一九一一	□
七三七		ヨハンゼン	一般種及純粹種に於ける形態遺傳		一九〇三	□
七三八		デユンケルベルヒ	牧草耕作及利用		一九〇五	□
一〇六四		ブラウンガルト	印度ゲルマニア全民族農業の故郷		一九一二	□
一〇六五		バツハマン	國民經濟原理 第一編[:] 一般經濟		一八九七	□
一〇六六		〃	〃 第二編[:] 農業と農業政策		一八九六	□
一〇六七		ミトフート	農學校用法律學		一九〇九	□
一〇六八		アウハーゲン	西伯利亞移住に就て		一九〇二	□
一〇六九		〃	裏高架索の農業		一九〇五	□
一〇七〇		ワイン	作物としての大豆		一八八一	□
一〇七一		リツダアンベツ	農業と植物栽培法		一九〇四	□
一〇七二		キツスリング	煙草學と煙草栽培及煙草工業		一九〇五	□

## は- 51-

一〇七六	ラウル	農業に於ける評價記帳計算法	一九一一	□
一〇七八	ファルケ	牧場及草地に於ける施肥影響の試験 第一部	一九〇四	□
一〇七九	ファルケ	エーレンベルグの牧場組合	□	□
一〇八〇	フランケ	牧畜問答	一九一〇	□
一〇八一	プロエダーアン クネニゲンドルフ	牧畜基本	一九〇二	□
一〇八二	ファルケ	持久牧畜	一九〇七	□
一〇八三	ストレーベル	幼牛飼養法	一九〇八	□
一〇八四	パツソン	慣用的滋養飼料の利用	一九〇五	□
一〇八六	シュワーブ	齒牙に據る馬匹年齢鑑定法	□	□
一〇八七	クニスperl	牧畜業組合の組織と管理	一九〇二	□
七三九	ケーニヒ	牧場	一九〇六	□
七四〇	モムゼン	ビーデンコップ[:] 飼草論	一九〇六	□

## は- 52-

七四一	メツツ	近代人造肥料	一九〇八	□
七四二	ヒンク	受胎と遺傳	一九〇五	□
七四三	ブランケ	有用家禽飼養法	一九〇五	□
七四四	〃	家禽 第一編[:] 大家禽 第二卷	一九〇八	□
七四五	ベーク	家禽飼養法 第一卷[:] 養雞法	一九〇八	□
七四六	グリユンハルト	工藝的養禽法	一九〇九	□
七四七	ツアンダア	養蜂 第三卷[:] 密[密蜜]蜂の形態	一九一一	□
七四八	ワグナア	牧畜篇	□	□
七四九	〃	牧牛篇	□	□
七五〇	クラフト	農業 第三卷[:] 牧畜論	一九〇六	□
七五一	グロース	農事有用動物 第七卷[:] 東フリースランド種馬匹	一九〇八	□
七五二	ラウ	獨逸牧馬の急務	一九〇七	□

## は- 53-

七五三	ノエルナア	瑞西の斑牛	一八九二	□
七五四	ボルヒヤルト	フキンランドの農業	一九〇八	□
七五五	スカルワイト	英國の果樹栽培	一九〇七	□
七五六	フロスト	丁抹・佛蘭・和蘭に於ける牛酪取引	一九〇六	□
七五七	メツツガア	丁抹の山毛櫨苗木用器具	一九〇六	□
七五八	ノイダム	林務官試験準備書	一九〇八	□
七五九	コットマイヤ	農學校林業教科書	一九〇三	□
七六〇	テイム	街路樹	一九〇六	□
七六一	ガオヒヤア	樹木の改良	一九〇九	□
一九四	シュワツパツハ	森林論	一八九四	□
四六九	エンドレス	森林論	一九〇五	□
一三四	ハイヤア	養林	一九〇六	□

四二〇	マイル	養林	一九〇九	□
三七七	ヘツス	「ハイヤア」養林(一名)森林産業 第二卷	一九〇九	□
四七〇	ノイマイスタア	「ユードアイヒ」森林整理	一九〇四	□
三九六	ストエツツア	森林整理	一九〇八	□
九〇(1-2)	シュワツツパツハ	獨逸森林竝に狩獵沿革 卷一・卷二	二九〇六	二[冊]
四八九	〃	「ノイダンマア」林務員必携	一九〇八	□
五九一	マイル	「ガリヤア」森林利用法	一九〇九	□
五五一	ウキムマア	外國種樹木の試植(バーデン大公國官林)	一九〇九	□
四八八	エツクシユタイン	野獸に對する森林防護法	一九〇四	□
四七九	グルンドイヤア	森林生木數計算法	一九〇七	□
四六八	エンドレス	森林價格計算法及林業經濟學	一九一一	□
四六四	ニユツスリン	森林昆蟲學彙	一九〇五	□

一〇八八	シュワツツパツハ	養林學	一九〇八	□
一〇八九	ラリス	有用木材の種類	一九一〇	□
一〇九〇	ヨエスチング	森	一八九八	□
一〇九二[三一]	グローテ	林業計算問題	一九〇八	□
一〇九二	クロデイ	養魚と養殖地[ <sup>2</sup> 地池 <sup>2</sup> ]	一九〇八	□
七六二(1-2)	タウルケ	養魚法	一九〇八	同二[冊]
四〇二	スコーフロネク	漁撈と養殖	一九〇四	□
九五二	デルブリユック	天然酵母培養法	一九〇三	□
五五九	リーゼンフェルド	銀行との取引に於ける農夫須知事項	一九〇六	□

## M. 工藝

## (一) 一般

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
一九三(1-3)	獨逸工業協會	工業研究報告 卷二九 <small>自卷四五至卷四七</small> 及 <small>自卷七九至卷一〇六</small>	一九〇五—一九〇七	三[冊]

一九五	リンダース	工藝上必要ナル物理的質量	一九〇四	□
六九五(184)	アイゼル	工藝叢書 第六九編[:] 幾何學的光學の要素	一九〇八	□
七〇〇(1-5)	フキツシヤア	火力工業家節用	一九〇九	同五[冊]
八九二	ウエツデイング	鐵の試験法	一八九四	□
八九三(1-2)	獨逸工藝協會	研究作業報告 第二二卷[:]第三九卷	二九〇五	二[冊]
八九四	王室材料検査局	伯林高等工業學校[:]王室材料検査局報告	一九一二	□

## (二) 機械

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
二〇五	キツク	機械工藝學講義	一九〇八	□
六九五(15)	ライヒェルト	工藝叢書 第一一〇編[:] 機械構造法	一九〇九	□
〃 (16)	〃	〃 機械構造材料検査法	一九〇九	□

三四六	ブランド	蒸汽機關運轉監督検査法	一九一三	□
三四七	ウエーネルト	機械製造及建築組立固定法	一九〇八	□

は-57-

五八八	フライタツハ	機械製造参考書	一九〇八	□
五六三	ネツデン	機械製造志願者實習	一九〇七	□
六二四	ハイヤア	蒸汽々罐焚火法	一九一〇	□
三三七	ギユルドナア	瓦斯發動機及働[働動]力瓦斯装置の設計及計算	一九一四	□
五六四	カムマアホフ	「エヂソン」蓄電器	一九一〇	□
四七三	ウエバア	渦輪及水門綫條	一九〇七	□
四五〇	ステファン	索道の構造及利用	一九〇七	□
三三八(1-3)	エルンスト	起重機 第一卷・第二卷・第三卷	一九〇三	三[冊]
六三二	シユルレンバツト	室内装置工藝雜誌 第一七卷	二九二三	□
四〇三	バツハ	計算及構成上より見たる機械の要素 第一卷	一九〇八	□
八九五	ミラー	器械學	一九〇六	□
八九六	ガウス	機械計算用對數表	一九〇一	□

は-58-

八九七	ドクリル	測量器製法	一九〇七	□
八九八	モール	機械學	一九〇六	□
八九九	ラウエンシユタイン	機械學	一九〇七	□
九〇〇	ビーデンカツブジエームス・ワット	と蒸汽機關發明	一九一一	□
九〇一	クライバア	蒸汽機關, 汽罐, 瓦斯, 石油, 及ベンチ[手ヂ <sup>2</sup> ]ンモートル	一九〇八	□
九〇二	ゲットシエ	冷却機	一九一〇	□
九〇三	オストホフ	機械構成計算法	一九〇九	□

(三) 建築

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
三四四	ワウルチニヨク	機械及建築材料検査法	一九〇八	□
四九八	ヘツク	建築機械學	一九〇八	□
四一四(1-2)	ヒュルツヒ	建築構成上の靜力學 第一卷・第二卷第二編	二九〇五	二[冊]
四五五	シユミット	建築學 第四編[:] 建築物設計及構築 第三卷第一部[:] 農事建築物	一九〇一	□

は-59-

五六六	ホトツブ	「ケツク」建築固定計算に於ける彈力論	一九〇五	□
四九七	シユーベルト	田園建築指針	一九一〇	□
五九七(1-39)	エルプカム シユンデル工務省	建築雜誌 自卷二至卷六〇 缺卷一, 三 - 八, 一〇 - 一六, 二一, [二三 - 二五, 二八] <sup>2</sup> , 四一, 四三, 四五 - 四六, 五五	自一八五二 至一九一〇	□
六三八(1-35)	〃	建築雜誌附圖 自卷二至卷六〇 缺卷一, 三 - 八, 一〇 - 一六, 二一, 二三 - 二五, 二八, 四一, 四三, 四五 - 四六, 五五, 五九	自一八五二 至一九一〇	□
二一〇(1-30)	獨逸建築 工務協會	建築雜誌 自卷三至卷三四 缺卷一, 二, 四, 五	自一八六七 至一九〇〇	□
二一二(1-26)	工務省	建築公報 自第一卷 至第三二卷 缺卷二一, 二二, 同書[同書]八, 九, 一〇, 一二	自一八八二 至一九一三	□
〃 (29-36)	〃	〃 自第二三卷至第三〇卷	一九〇三 一九一〇	八冊

〃 (27-28) 〃	建築公報目録 自卷一至卷一〇	二八八〇	二册
〃 (37) 〃	〃 自第一一卷至第二〇卷	一九〇二	〇
二九一(1-4) 伯林建築協會	獨逸建築週報 第一卷 - 第五卷	一八六七 一八七一	第三卷缺 四册

は- 60-

六一七(1-10) 建築公報 編輯部	記念碑建築雜誌 第一卷 - 第一三卷 缺卷二, 三, 九	二八九九 二九〇一	十册
六二二(1-2) ハールマン	建築工業雜誌 第五五卷[・]第五七卷	二九一〇 二九一三	二册
九〇四	ダウブ 上部建築法 第四編[:] 建築指導	一九〇九	〇
九〇五	ウエイラオホ 弾力性穹窿脚柱	一八九七	〇
九〇六	フローン 畫法靜力學	一九〇六	〇
九〇七	コルネリウス 機關車庫の設計と建築	一九〇九	〇
九〇八	製綱[綱鋼]會社 上部建築に於ける鐵	一九一三	〇
九〇九	ストウルケル 架橋附圖 第二	一九〇六	〇
九一〇(1-2)	ヘーゼラア 架橋 第一編[:] 鐵橋及同附圖	一九〇八	二[册]
九一一(1-3)	普國王室 鐵道協會	普國鐵道の轉轍, 軌道6dの轉轍 第一・第二・第三編	〇 三[册]
〃 (4-7) 〃	〃 軌道8aの轉轍 第一・第二・第三・第五編	〇	四[册]
九一二	〇 ハノーヴァー裁判所新築寫眞	〇	〇

は- 61-

一〇九三	デラバール 主要木組法	一八九六	〇
一〇九四	〃 石材主要構築法	一八九九	〇

(四) 礦山

「假 番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註 1
一〇九五(1-2)	ホエフアー	礦業員必携 第一卷[・]第二卷	一九一一	二[册]
九一三	クルーグ	ケル, 礦石試驗法	一九〇八	〇
九一四	ウェツディング	製鐵	一九〇八	〇
九一五	〃	冶金術 第三卷[:] 製鐵法	〇	〇
九一六	クルツシュ	礦層調査法及評價法	一九〇七	〇
九一七	ベルトリング	獨逸に於ける重晶石礦層	一九一一	〇
九一八	スツツター	非金屬の重要礦層 第一編[:] 花崗石・金剛石・硫黃・磷礦	一九一一	〇
九一九	バーク	獨逸褐炭・石炭・加里礦業年報 第十一卷	一九一一	〇
九二〇	アーレンツ	一九一三年度萬國石油工業便覽	一九一二	〇

は- 62-

九二一(1)	農商務省	普魯西鑛業雜誌 第五六卷	一九〇八	〇
六六二(1-2)	〃	〃 第五七卷[・]第五八卷	二九〇九	二[册]
九二一(2)	〃	〃 第五六卷統計附録	一九〇八	〇
九二二	コルベック	鑛業新報 第六〇卷	一九〇一	〇
九二三	ライニン ライニア ウエスト ライニア 石炭組合	一九世紀後半に於けるライニン ライニア石炭業沿革 第一〇編[:] 經濟的發達 第一	一九〇四	〇
四四八	シュナーベル	冶金術	一九〇四	〇
三四三(1)	ハイゼー[≡]?	探礦學 第一卷	一九一一	〇

三四三(2-3)	ハイゼ[ <del>ハイゼ</del> カ]	カ	第三一卷	一九一一	同二[册]
カ	(4-6)	カ	カ	第三二卷	一九一〇 同二[册]
一四四(1-3)	ダーピエル	鑛山探掘法	卷一・卷二・卷三	一九〇五	一九〇七 三[册]
六九五(1-5)	ユングスト	工藝叢書	第七七編[:] 有用鑛層	一九〇八	同五[册]

は- 63-

六九五(6-13)	フリーゼ	工藝叢書	第三七編[:] 鑛石及石炭の撰[撰選]鑛	一九〇八	同八[册]
カ	(17-18)	ミラア	カ	第一二編[:] 測量術	一九一〇 同二[册]
二四四	バイシユラーグ	有用鑛石の鑛層	第一卷	一九〇九	□
一四八	ホエグラー	石油	卷二	一九〇九	□
四四〇	ブルース	獨逸に於ける有洋用鑛物及山嶽の種類		一九〇六	□
六九四	フツテラア	金山[ <sup>?</sup> 由産 <sup>?</sup> ]地「アフリカ」の過去、 <sub>1</sub> 現在及將來		一八九五	□
三八三	シユマイサア	トランスバールに於ける有用鑛物の所在と採掘		一八九五	□

(五) 土木

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註	
四二三	ヒュージング	ポートランドセメント	一九〇五	□	
三二一(1-3)	エムペルガア	鐵筋コンクリイト 第一卷・第二卷・第三卷	一九〇七	三[册]	
カ	(4-6)	カ	カ	第四卷第一編・第二編・第三編	一九〇九 三[册]
三二三(1-4)	カ	ベトン及鐵	第九卷・第一〇卷・第一一卷・第一二卷	一九一三	四[册]

は- 64-

一三五	フリニドリヒ	水道設備竝に經營	一九〇七	□	
四〇九	マツテルン	水力の利用	一九〇八	□	
六三九(1-2)	ルドルフ	建築雜誌増刊[:] 北米治水工事報告(一八九五年號)及全附圖	一八九五	二[册]	
九二四	ケルステン	鐵筋コンクリイト	第二編	一九〇九	□
九二五	ケルラア	下部工事構圖(圖面二六枚)	一九〇三	□	
九二六	ガマン	道路維持法	一九〇八	□	

(六) 雜

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
九二七	ヂヤコノウ	硝子製造吹管法	一九一一	□
九二八	ミユルラア	印刷術	一九〇四	□
九二九	クラーセン	製糖工業 第一[:] 製糖	一九〇五	□
九三〇	ドナート	着色寫真	一九〇六	□
九三一	エルバン	染料印刷・製紙工藝提要	一九〇八	□

は- 65-

九三二	バーデン リシニダ アニ 社	染料利用法	□	□
九三三	ワルドウ	植字工	□	□
四九六	パロウ	澱粉製造	一九〇八	□
四〇四	バーデン リシニダ アニ 社	アニリン	一九〇〇	□
三八八(1)	レオポルド セセラ 社	絨毛染色	□	□



〃	(2-3)	〃	木綿染色及全追加 第一卷	一九〇二 二九〇四	二[册]
〃	(4)	〃	絹毛混合材料の染色	一九〇六	□
三七九(1-4)	□		造船協會年報 自第一卷至第七卷	一九〇〇 一九〇六	缺卷五 三六
五八二(1-2)	王室監督委員會	王室原料試驗局報告	第二九卷 第三〇卷	一九一一 一九一二	二[册]
五〇九	デユツセルドルフ ネスマン	マンネスマン鐵管製造所一覽		□	□

#### N. 交通・商業

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註	
一九二	トロスケ	一般鐵道學 卷一	一九〇七	□	
				は-66-	
四七四	ロエツダー	長距離電車の進歩	一九〇八	□	
五〇六(1-28)	プロシヤ工務省	鐵道雜誌 自第二卷至第三〇卷	一八七九 一九〇七	缺卷一 六	
三五一(1-12)	〃	輕便鐵道雜誌 自第一卷至第一四卷	一八九四 一九〇七	缺卷六 一三	
九三四	ケグバイン	一九一二年度世界海運及造船	□	□	
九三五	オーデル	列車解體停車場	一九〇四	□	
九三六	カウアー	乗客停車場	一九一三	□	
九三七	エツカート	ケルン高等商業學校[:]一九〇六 - 〇七年度報告	一九〇八	□	
四四二(1)	支那海關	支那開港場商工業發達報告(一八九二 - 一九〇一[:]一〇年間)			
		卷一[:] 北方及揚子江沿岸諸港	一九〇四	英	
〃 (2)	〃	〃	卷二[:] 南方諸港	一九〇六	英
四〇六	ルキ・ガイヤール	開港地「南京」	一九〇一	佛	

は-67-

#### O. 雜件

假番號	著譯者名	書名	發行年代	註
四四三	ウエンクステルン	大日本書史 一八九四 - 一九〇六年	一九〇六	英・佛・獨
三六三(1-4)	フォルクマール	獨逸出版目錄 二九〇九 - 一九一〇年 一九一三 - 一九一四年	□	四[册]
一九〇	シュレーゲル	プロシヤ圖書館アルファベット 目錄解説	一九〇九	□
五九三	エンゲルマン	書店エンゲルマン百年祭紀念目錄	一九一一	□
二四(1-4)	アンリ・コルデキエ	支那帝國に關する著述一覽 自卷一 至卷四	一九〇八 一九〇九	四[册]
五八九(1-2)	帝國統系[系計]局	獨逸帝國統系[系計]年報 第二九卷[・]第三〇卷	二九〇八 二九〇九	二[册]
六五六	シュミット	伯林大學百年祭報告(一九一〇年)	一九一一	□
五四九	□	ミュンヘン大學文科大學會議報告 第二卷	一八七三	□
三三二	コロンビヤ大學	コロンビヤ大學一覽	一九一三	□
三三五(1-2)	遞信省布令局	帝國郵便小切手取引人名簿	一九一三 一九一四	二[册]
二四〇(1-3028)	プレトシユナイ ストユルツェル エンペルガー	英國亞細亞協會[北] <sup>4</sup> 支那支部雜誌	自第一卷 一八六八 至第三五卷 一九〇四	缺卷: 四 六 一四 一三 二九 但シ廿 八册

は-68-

五八四	[大 <sup>2</sup> ]同會社	大同電氣會社案内(A.E.G.)	□	□
六二八(1-2)	〃	物理機械製造 マックス・コール會社商品目錄第二一卷及全補遺	□	二[册]

<sup>4</sup> 原文は“デユツセルドルフ 〇マンネスマン鐵管製造會社”乍ら、技術的理由で表記の如くしておいた。

九三八(1-2)	シユルツ	伯林讀本 第四卷	□	同二[冊]
九三九	ヘロルド	中學獨逸讀本 第二卷	一九一	□
九四〇	エンゲリー	獨逸讀本(小學二年生用)	一九一〇	□
九四一	デイトライン	初等獨逸讀本	一九〇四	□
九四二	ウユルテンベルヒ	高等獨逸讀本 第三卷	一九〇五	□
九四三	プツツガア	小學獨逸讀本(二年生前期)	一九〇九	□
九四四(1-2)	ザンダア	徳文讀本漢釋	一九一三	□
九四五	□	獨逸高等工業學校諸規定	一九〇四	□
九四六	エチエンヌ	支那武官登用試験	一八九六	佛
九四七	□	一八七七年度北京ガゼット 翻[翻譯]譯	一八七八	英
は- 69-				
九四八	□	鑛業著書及會社人名目錄	一九一〇	□
九四九	□	レンズ目錄	□	□
九五三	□	ヘブライ語書籍	一八九七	□
一〇九六	サロモン	サロモン新聞一般史	一九〇七	□
一〇九七	ブルンフーバア	獨逸の新聞事情	一九〇八	□
一〇九八(1-2)	パルダムス	高等女學校用獨逸讀本 第二卷[・]第四卷	一九〇六 一九〇五	二[冊]
一〇九九	□	一九一二年度伊太利數[學]著書目錄	□	伊

に- 1-

德華高等學堂藏書 漢籍之部 目錄

第一. 經書子類(哲學[・]教育學)

[假] 番 號	書 名	卷	冊數	摘要
三五二	大學衍義及衍義補 第一帙[:] 大學衍義 第二帙[:] 同 大學衍義補	一 - 三九 四〇 - 四三 一 - 一六〇	八 二 三八	□ □ 自第三帙至第六帙計四帙
一五	校補蘇氏增批孟子	上[・]下	二	□
一	四書經註集證 第一帙[:] 大學 第一帙[:] 中庸	一 一	一 一	□ □
	論語	一 - 八	六	□
	第二帙[:] 論語	九 - 一〇	一	□
	孟子	一 - 七	七	□
二二	經苑(四庫全書) 第一帙[:] 易苑 吳園 周易解 誠齋[齊齋] 易傳	一 - 六 一 - 九 一 - 一九	二 二 四	□ □ □

に- 2-

	第二帙[:]	易傳證 <small>易學通解 欽定四庫全書</small>	全一	一	□
		尙書精義	一一-三二	七	□
	第三帙[:]	尙書精義	三三-五〇	四	□
		詩總聞	一一-一七	四	□
	第四帙[:]	詩總聞	一八-二〇	一	□
		呂氏讀詩記	一一-二五	七	□
	第五帙[:]	呂氏讀詩記	二六-三二	二	□
		續呂氏讀詩記	一一-三	二	□
		周官新義	一一-一六	四	□
	第六帙[:]	義[義儀]禮集釋	一一-二六	八	□
	第七帙[:]	義[義儀]禮集釋	二七-三〇	一	□
		春秋集解	一一-一二	二	□
		春秋纂例	一一-八	四	□
		春秋微旨	上・中・下	一	□
二二	第八帙[:]	孝經刊誤本義或問翼	全一	一	□
		論語意原	一一-四	一	□
		孟子外書	一一-三	一	□
		四書叢書 大學	全 二	一	□
		四書叢書 中庸 論語	上 中 下	一	□
		瑟譜	一一-六	一	□
二七		皇清經解	一一-一,四〇八	三六〇	計四十帙
二八		皇清經解續編	一一-一,四三〇	二八〇 <sup>八</sup> 第九 一七 三五 三九 二五 二	計四十六帙
四八		毛詩注疏	一ノ一-二〇ノ四	二四	□
五四		欽定詩經傳說	一一-二一	一六	內詩序上下二册アリ
五七		御纂周易折中	一一-二二	一〇	計一帙
四二		禮記注疏	一一-六三	二八	計四帙
三〇		五禮通考	一一-二六二	一〇〇	計一〇帙
三八		二程遺書(四庫全書)			
	第一帙[:]	二程遺書	一一-二五	四	□
		二程外書	一一-一二	一	□
		明道文集	一一-五	一	□
		伊川文集	一一-八	二	□
	第二帙[:]	伊川文集	全一	一	□
		伊川易傳	一一-四	三	□
		伊川經說	一一-四	一	□
三八	第二[三三 <sup>?</sup> ]帙[:]	程氏經說	五-六	一	□
		二程粹書	一一-二	二	□
三三		朱子五[五語]類	一一-一四〇	四八	計六帙
三六		船山遺書(四庫全書)			
	第一帙[:]	周易內傳	一一-六	七	□
		周易稗疏攷異	一一-四	一	□
		周易大象解	全一	一	□

に- 3-

に- 4-

に- 5-

に- 6-

	周易外傳	一一二	一	□
	周易外傳	一一二	一	□
	<del>[周易外傳]</del>	<del>一一二</del>	<del>一</del>	<del>□<sup>?</sup></del>
第二帙[:]	周易外傳	三-七	三	□
	尚書引義	一-六	三	□
	書經稗疏	一-四	二	□
	詩經稗疏	一-四	一	□
	<del>詩經文義</del>	<del>一</del>	<del>一</del>	<del>□</del>
	<del>詩經注十卷廣辨</del>	<del>一</del>	<del>一</del>	<del>□</del>
第三帙[:]	詩廣傳	一-五	二	□
	禮記章句	一-一四	八	□
第四帙[:]	禮記章句	一五-四九	七	□
	春秋家說	一-三	□	□
第五帙[:]	春秋稗疏	上-下	一	□

に- 7-

	春秋世論	一-五	二	□
	<del>春秋世論</del>	<del>上[•]下</del>	<del>一</del>	<del>□</del>
	<del>左氏傳傳釋</del>	<del>一-六</del>	<del>六</del>	<del>□</del>
第六帙[:]	四書大全說	一-六	六	□
	四書大全說	七-一〇	四	□
	四書稗疏攷異	一	一	□
	說文廣義	一-三	三	□
	讀通鑑論	一-六	二	□
第七帙[:]	讀通鑑論	七-三〇	一〇	□
第八帙[:]	宋論	一-一五	四	□
	永祿實錄	一-二六	三	□
	蓮峰志	一-五	一	□
	張子正蒙注	一-四	二	□

に- 8-

第九帙[:]	張子正蒙注	五-九	二	□
	思問錄內外篇	一	一	□
	俟解噩夢	一	一	□
	黃書識小錄 老子衍	一	一	□
	莊子解	一-三三	五	□
第一〇帙[:]	楚辭釋	一-八	三	□
	薑齊[齊齋]文集	一-一〇	一 <sup>?</sup>	□
	薑齊[齊齋]稟	一	一	□
	薑齊[齊齋]詩集	一	一	□
	<del>寬政神初集 二集</del>	<del>一</del>	<del>一</del>	<del>□</del>
	<del>瀧洲相名錄</del>	<del>一</del>	<del>一</del>	<del>□</del>
	詩話	一	一	□
	<del>經義</del> <del>三才台山</del> <del>漢書</del> <del>文選</del> <del>功己</del>	<del>一</del>	<del>一</del>	<del>□</del>
	<del>三才台山</del> <del>漢書</del> <del>文選</del> <del>功己</del>	<del>一</del>	<del>一</del>	<del>□</del>

に- 9-

三六	第一〇帙[:]	薑齊[齊齋]詩文體編年稟文集補遺 全一	一	□
五		御纂性理精義	一-一二	六
二五		廣雅叢書		
	第一帙[:]	尚書仲孔篇禹貢班義述	上•中•下	一
		毛詩傳箋通釋	一-一七	五
	第二帙[:]	同	一八-三二	七
	第三帙[:]	禮記天算釋	全一	一
		毛詩天文考	全一	一

	爾雅補注殘本	全一	一	□	
	釋穀	一 - 四	一	□	
	漢碑徵經	全一	一	□	
	汗簡箋正	一 - 二二	四	□	
				に- 10-	
	第四帙[:]	史記志疑	一 - 一五	七	□
	第五帙[:]	同	一六 - 三六	七	□
		補續漢書藝文志	全一	一	□
	第六帙[:]	諸史考異	一 - 一八	三	□
		近思錄	一 - 七	三	□
	第七帙[:]	同	八 - 一四	二	□
		史記天官書補目	全一	一	□
		史表功比說	全一	一	□
		史漢駢枝楚漢諸侯[候侯]疆域志	全一	一	□
	第七帙[:]	人表攷	一 - 九	四	□
	第八帙[:]	歷代史表	一 - 二五	三	□
	第九帙[:]	同	二六 - 五九	三	□
				に- 11-	
		三國志攷證	一 - 八	二	□
	第一〇帙[:]	<del>晉書攷證</del> 宋州郡志攷證	二 - 四 三	一	□
		漢[漢漢]書辨疑	一 - 二二	五	□
	第一一帙[:]	<del>水經注西南南水攷</del> 統術詳記	二 - 三 四	一	□
		三國志辨疑	一 - 三	一	□
		後漢書注文補	全一	一	□
		後漢書辨疑	一 - 一一	三	□
		句溪雜著	一 - 六	一	□
		廣溪[溪經]室文鈔	全一	一	□
	第一二帙[:]	學詰齋[齋齋]文集	上・下	一	□
		愈愚錄	一 - 六	二	□
		劉氏遺書	一 - 八	二	□
				に- 12-	
		先聖生卒年月表	全一	一	□
四 <sup>2</sup> 七	日知錄	一 - 三二	一六	□	
□五	經史百家雜鈔	一 - 一二	六	□	
七六	尚書注疏	一 - 二〇	一〇	□	
八六	欽定書經傳說彙纂	一 - 二一	一二	□	
七七	<del>周易注疏</del> 經典釋文	二 - 九	五	計一帙	
一〇五	周禮注疏	一 - 四二	一八	計二帙	
八八	欽定禮記義疏	一 - 八二	三二	計四帙	
一八四	論語本義官話	全一	二	□	
一一一	孟子注疏(四庫全書)	一,上 - 一四,下	八	□	
一四七	中庸本義官話	全一	二	□	
一四六	大學本義官話	全一	三	□	
				に- 13-	
七二	古經解彙函				

	第一帙[:]	鄭氏周易注	上・中・下	一		□
		陸氏周易述	一	一		□
		周易集解	一--一七	五		□
		周易口譯義	一--六	一		□
		周易之坤圖說(陸氏)	上・下	一		□
		周易之坤圖說(陸氏)	上・下	一		□
	第二帙[:]	韓詩外傳	一--一〇	□		□
		毛詩陸疏	上・下	一		□
		易緯稽覽圖	一	一		□
		春秋繁露	一--一七	二		□
		尚書大傳	一--三	二		□
						に-14-
	第三帙[:]	春秋釋例	一--一五	六		□
		春秋集傳纂例	一--一〇	三		□
	第四帙[:]	春秋微旨	上・中・下	一		□
		春秋集傳辨疑	六--一〇	一	但シ卷一 - 五マテ 一册缺	□
		論語義疏	一--二	一		□
		論語集解	一--一〇	三		□
		論語筆解	上・下	一		□
七五	孝經注疏		一--九	二		計一帙
六七	前命書注疏		一--二〇	六		
	小學彙函					
	第一帙[:]	方言	一--一三	一		□
		釋名	一--八	一		□
		廣雅	一--一〇	一		□
						に-15-
		匡謬正俗	一--八	一		□
		急就篇	一--四	二		□
		說文解字	一,上--二,下	四		□
	第二帙[:]	說文繫傳	一--四〇	五		□
		說文繫傳校勘記	上・中・下	一		□
	第三帙[:]	說文篆韻譜	一--五	二		□
		玉篇	上・中・下	三		□
		干祿字書[・]五經文字	上[・]中	一		□
		五經文字[・]九經字樣	下	一		□
	第四帙[:]	廣韻上平聲	一	一		□
		全 下平聲	一	一		□
		全 上聲	一	一		□
						に-16-
		全 去聲	一	一		□
		全 入聲	一	一		□
		全 廣韻	一--五	五		□
一三七	經義亭疑		一--三	一一		□
一二五	近思錄補註		一--一四	四		□
[一] <sup>2</sup> 二四	宋元學案		一--一〇〇	四八		□
一四三	蒙學讀本全書		全	七		□
一四二	修身教科書		一--四	四		□
[一] <sup>2</sup> 四九	修身教科書詳解		二--三	二		□
一五八	兒童矯弊論		一	一		□

一五一	第一次教育統計圖表	一	一	光緒三十三年度分
一一七	新譯日本教育法規	一編 - 一八編	一二	計二帙
				に- 17-
一三〇	山東教育官報	一期 - 一八期	一四	但シ四 二三 一四缺本
[一二] <sup>2</sup> 七	吉林教育官報	九三 - 一〇一	六	但シ一 - 九二、九四、 五、七缺卷
一三一	山東教育公報	中華元年度 二 - 二〇 中華二年度 二 - 二	二〇 二	□

## 第二. 史傳

假番號	書名	卷	冊數	摘要
四九	春秋左傳[注]疏	一 - 六〇	三〇	但シ六 計四帙
五五	欽定春秋傳說	一 - 三八	一九	但シ六 計二帙
二	資治通鑑	一 - 二九四	一〇〇	計一〇帙
三	正續資治通鑑	一 - 二二〇	六〇	計六帙
六三	南北齊書			
	第一帙[:] 南齊書 北齊書	一 - 五九 一 - 五〇	五 五	に- 18- □ □
六二	隋書	一 - 八五	一二	計二帙
三九	宋史鑑(四庫全書)	一 - 一五〇	二四	計三帙
二九	廿二史劄記	一 - 三六	一〇	計二帙二部
五三	廿二史攷異	一 - 二三	六	□
一一	文獻通考	一 - 三四八	七二	計一二帙
一二	通志	一 - 二〇〇	九六	計一六帙
一〇	通典	一 - 二〇〇	二四	計四帙
二一	五種記事本末			
	第一帙[:] 左傳記事本末	一 - 四七	一〇	□
	第二帙[:] 同	四八 - 五三	二	□
	通鑑記事本末	一 - 三三	八	に- 19- □
	自第三帙 至第七帙[:] 通鑑記事本末	三四 - 二二二	五〇	□
	第九帙[:] 宋史記事本末	二九 - 七八	一〇	但シ一 - 二八、一帙 缺本
	第一〇帙[:] 同	七九 - 一〇九	六	□
	元史記事本末	一 - 二七	四	□
	自第一帙 至第一二帙[:] 明史記事本末	一 - 八〇	二〇	□
五八	國朝先正事略			
五八[五六]	第一帙[:] 國朝先正事略	一 - 二五	五	□
	第二帙[:] 國朝先正事略	二六 - 六〇	三	□
	續先正事略	一 - 八	二	□
九四	儀禮注疏	一 - 五〇	一六	計二帙
一一〇	欽定儀禮義疏	一 - 四八	二六	計四帙
				に- 20-
九七	皇朝通典	一 - 一〇〇	四〇	計四帙

九八	欽定續通典	一一一五〇	四〇	計四帙
九九	皇朝通志	一一一二六	四〇	計四帙
一〇〇	欽定續通志	一一六四〇	二〇〇	計二〇帙
一二一	讀禮通考	一一一二〇	三二	計四帙
九五	皇朝文獻通考	一一三〇〇	一六〇	計一六帙
九六	欽定續通考	一一二五〇	一二〇	計一二帙
六六	文獻徵存錄	一一一〇	一二	〇
七八	公羊注疏	三二二八	一一	但, 卷一 - 二, 一册缺本
一一九	穀梁注疏(四庫全書)	一一二〇	六	〇
九二	史記	一一一三〇	一六	計二帙
一一六	十七史商榷	一一一〇〇	一四	計二帙

に- 21-

八九	<b>史通別釋</b> ( <b>文心雕龍補注</b> )	二二四〇	四	計一帙	
九三	諸史拾遺	一一五	二	〇	
一六一	古今圖書集成 邊裔典	全第五十九卷	一	〇	
七九	歷代帝王年表	一一三	三	〇	
一一三	批點歷代史論 第一帙[:] 左傳史論 歷代史論 宋史論 元史論 明史論	一一二 一一一二 一一三 一 一一四	一 五 二 一 一	} 計一帙	
一三五	王船山續[續讀]通鑑論附宋論	<del>宋論</del> 一一二 <del>續讀</del> 二二六	九		讀通論四, 三卷缺
一三四	繡像東周列國志	三二二七	六		二九二 三二 缺卷

に- 22-

一〇六	前漢書	一一一〇〇	一六	計二帙
一〇七	後漢書	<del>一</del> 一一九〇	二三	計二帙
一一一	三國志	一一六五	八	〇
八四	魏書	一一一四	二〇	計二帙
八三	晉書	一一一三〇	二〇	計二帙
一〇四	北史	一一一〇〇	一六	計二帙
九一	南史	一一八〇	一六	計二帙
一〇八	陳書	一一三五	四	〇
八七	周書	一一五〇	四	〇
一一五	梁書	一一五六	六	〇
九〇	舊五代史	一一一五〇	一六	計二帙
七三	五代史	一一七四	八	〇

に- 23-

八〇	舊唐書	一一二〇〇	四〇	計四帙
八一	唐書	一一二二五	四〇	計四帙
八五	宋書	一一一〇〇	一六	計二帙



六八	宋史	一 - 四九六	一〇〇	計一〇帙
一一八	遼史	一 - 一一五	一二	計二帙
七〇	金史	一 - 一三五	二〇	計二帙
六九	元史	一 - 二一〇	四〇	計四帙
七一	明史	一 - 三三二	八〇	計八帙
一二二	拿破崙本紀	一 - 四	四	□

第三. 文學(美術・音樂)

に-24-

假 番 號	書 名	卷	冊數	摘要
五六	文選	一 - 六〇 二四	內. 考異一 - 一〇. 四册アリ 計三帙	
六	古文辭類纂			
	第一帙[:] 古文辭類纂	一 - 四六	八	□
	第二帙[:] 古文辭類纂	四七 - 七五	四	□
	續古文辭類纂	一 - 一〇	四	□
	第三帙[:] 同	一一 - 二八	八	□
三四	曾文正公			
	自第一帙[:] 奏稿	一 - 三六	三六	計四帙半
	自第五帙[:] 十八家詩鈔	一 - 二八	二八	計三帙半
	自第九帙[:] 經史百家雜鈔	一 - 二四	二四	計三帙
	自第十一帙[:] 同	二五 - 二六	二	□

に-25-

	經史百家簡編	上・下	二	□
	鳴原堂論文	上・下	二	□
	詩集	一 - 三	一	□
	文集	一	一	□
	第一三帙[:] 文集	一 - 三	三	□
	書札	一 - 六	五	□
三四	自第一四帙[:] 書札	七 - 二八	一六	計二帙
	自第一五帙[:] 書札	二九 - 三三	五	□
	批牘	一 - 三	三	□
	第一七帙[:] 同	四 - 六	三	□
	雜著	一 - 貳	二	□
	讀書錄	一 - 七	三	□

に-26-

	第一八帙[:] 同	八 - 一〇	一	□
	求闕齋[齊齋]日記	上[・]下	二	□
	年譜	一 - 九	五	□
	第一九帙[:] 同	一〇 - 一二	一	□
	家書	一 - 七	七	□
	第二〇帙[:] 同	八 - 一〇	三	□
	大事記	一 - 四	二	□
	家訓	上[・]下	二	□
	孟要	一 - 五	一	□
三一	元文類	一 - 七〇	一〇	□
六〇	正誼堂全書			
	第一帙[:] 周濂溪集	一 - 一三	四	□

				に- 27-	
	二程文集	一 - 一 二	三	□	
六[四] <sup>2</sup>	第二帙[:]	張橫渠集	一 - 一 二	□	
		朱子文集	一 - 七	□	
	第三帙[:]	朱子文集	八 - 一 八	□	
		楊龜山集	一 - 六	□	
		尹和靖集	全一	□	
		羅豫章集	一 - 四	□	
	第四帙[:]	羅豫章集	五 - 一 〇	□	
		李延平集	一 - 四	□	
		張南軒集	一 - 七	□	
		黃勉齋[齊齋]集	一 - 八	□	
		陳克齋[齊齋]集	一 - 五	□	
					に- 28-
		第五帙[:]	許魯齊[齊齋]集	一 - 六	□
			薛敬軒集	一 - 一 〇	□
		胡敬齋[齊齋]集	一 - 三	□	
		諸葛武侯集	一 - 三	□	
第六帙[:]	陸宜公集	一 - 四	□		
	韓魏公集	一 - 二 〇	□		
	[司馬] <sup>2</sup> 溫公文集	一 - 二	□		
第七帙[:]	同	三 - 一 四	□		
	[文] <sup>2</sup> 文山文集	上[•]下	□		
	謝疊山[集]	一 - 二	□		
	方正學集	一 - 四	□		
第八帙[:]	同	五 - 七	□		
				に- 29-	
六四	第八帙[:]	楊椒山集	一 - 二	□	
		二程粹言	上[•]下	□	
		伊洛淵源	一 - 一 四	□	
		上蔡語錄	上[•]中[•]下	□	
		讀書分年日程	一 - 三	□	
	第九帙[:]	同	三	□	
		朱子學的	上[•]下	□	
		學部通辨	一 - 一 二	□	
		讀書錄	一 - 八	□	
	第十帙[:]	居□[白業]錄	一 - 八	□	
		道南源委	一 - 六	□	
		困知錄[錄記] <sup>2</sup>	一 - 四	□	
					に- 30-
		思辨錄	一 - 二 二	□	
第一一帙[:]	讀禮志疑	一 - 六	□		
	讀朱隨筆	一 - 四	□		
	問學錄	一 - 四	□		
	松陽抄存	一	□		
	石徂徠集	上[•]下	□		
第一二帙[:]	高東溪集	上[•]下	□		

	眞西山集	一-八	二	□
	熊勿軒集	一-六	一	□
	第一二帙[:] 聞過齋[齊齋]集	一-四	一	□
	魏莊渠集	上[•]下	一	□
	羅整庵集	一-二	一	□
				に- 31-
	陳剩夫集	一-四	一	□
	第一三帙[:] 張陽和集	一-三	一	□
	湯潛庵集	上[•]下	一	□
	陸稼書集	一-二	二	□
	道統錄	上[•]下	二	□
	二程語錄	一-九	二	□
	第一四帙[:] 同	一〇-一八	二	□
	朱子五[五語]類	一-八	四	□
	濂洛關閩書	一-八	二	□
	第一五帙[:] 同	九-一九	三	□
	近思錄	一-一四	五	□
	第一六帙[:] 廣近思錄	一-一四	三	□
				に- 32-
	困學錄集粹	一-八	二	□
	小學集解	一-六	三	□
	第一七帙[:] 濂洛風雅	一-九	二	□
	學規類編	一-二七	四	□
	養正類編	一-一三	一	□
	居濟一得	一-四	一	□
六四	第一八帙[:] 居濟一得	五-八	一	□
	正誼堂文集	一-一二	三	□
	正誼堂續文集	一-八	二	□
	唐宋八大家文抄	一-三	二	□
	第一九帙[:] 同	四-一九	六	□
	范文正公集	一-九	二	□
				に- 33-
	第二〇帙[:] 楊大洪集	上[•]下	二	□
	海剛峯集	上[•]下	二	□
	續近思錄	一-一四	四	□
五〇	惜抱軒全集			
	第一帙[:] 文集	一-一六	三	□
	文後集	一-一〇	二	□
	詩集	一-九	二	□
	詩後集	一	一	□
	第二帙[:] <small>法中占題風交 三(傳)國語書本有註</small>	一-三	一	□
	筆記	一-八	二	□
	經說	一-一七	二	□
	五言詩	一-九	二	□
				に- 34-
	七言詩	一-九	一	□
三五	皇朝經世文續編	一-一二〇	八〇	計一〇帙

一六	國朝文祿[祿錄]	一一八二	一六	計二帙
一〇一	全上古三代秦漢三國六朝文			
	第一帙[:] 秦文	一	一	□
一〇一-[一〇一]?	第一帙[第一帙]? 三代文	一一一六	二	□
	漢文	一一三八	五	□
	第二帙[:] 漢文	三九-六三	三	□
	後漢文	一一三九	五	□
	第三帙[:] 後漢文	四〇-一〇六	八	□
	第四帙[:] 三國文	一一七五	八	□
	第五帙[:] 六帙[:] 七帙[:] 晉文	一一一六七	二四	計三帙
				に-35-
	第八帙[:] 宋文	一一六四	八	□
	第九帙[:] 齊文	一一二六	四	計一帙
	梁文	一一三六	五	計一帙
	第一〇帙[:] 陳文	三六-七四	六	計一帙
	後魏文	一一一八	三	計一帙
	第一一帙[:] 北齊文	一一六〇	七	計一帙
	第一二帙[:] 隨[隨隋]文(先唐文卷一)	一一三六	五	} 計一帙
	後周文	一一二四	三	
一二三	古文淵鑿	一一六四	三二	計三帙
一三三	正續古文辭類纂	一一七四	六	三二-四〇, 五二-六〇 缺卷
一六二	古文詞略	一一四	一	□
八二	唐文粹(四庫全書)	一一一〇〇	一六	計二帙
一一二	明文在	一一一〇〇	一〇	□
一〇三	皇朝經世文[編 <sup>2</sup> 續編 <sup>2</sup> ]	一一一二〇	八〇	計八帙
				に-36-
一三六	最新國文教科書	一一八	八	□
一四一	國文教科書詳解	一一三四	三四	□

#### 第四. 字典(言語學)

假番號	書名	卷	冊數	摘要
六五	爾雅注疏(四庫全書)	一一一〇	六	□
六一	段注說文解字			
	自第一帙[:] 段注說文解字	一篇-一二篇	一二	} 計二帙
	第三帙[:] 同	一三篇-一五篇	三	
	六書音均表	一一五	二	
	古閣說文訂	一	一	

に-37-

#### 第五. 政刑(經濟)

假番號	書名	卷	冊數	摘要
六〇	欽定周官義疏	一一四八	二四	計二帙
四六	欽定歷代職官錄	一一七二	二二	計四帙
四〇	天下郡國利病書	一一一二〇	六〇	計六帙
二三	列國政要	一一一三二	三二	計四帙二部
四	唐律疏義	一一三〇	八	計一帙
八	刑案匯覽	一一六〇	六四	計八帙

七	續增刑案匯覽	一一一六	一六	計二帙
一三	大清律例按語根源	一一一〇四	八〇	計一〇帙
一四	大清律例增修統纂集成	一一四〇	二四	計四帙
一七	大清法規大全			

に- 38-

一七	第一帙[:]	一一七	四	□
	憲政部			
	吏政部	一一二三	七	□
	第二帙[:]	一一一五	二	□
	民政部			
	財政部	一一四	三	□
	教育部	一一三一	七	□
	第三帙[:]	一一一三	六	□
	法律部			
	禮制部	一一九	一	□
	軍政部	一一一三	二	□
	實業部	一一一五	二	□
	第四帙[:]	一一二	一	□
	旗藩部			
	外交部	一一一三	六	□
	交通部	一一五	一	□

に- 39-

	大清新法律	全四	四	□
一八	正編大清法規大全			
	第一帙[:]	一一七	三	□
	憲政部			
	吏政部	一一二三	七	□
	第二帙[:]	一一一四	三	□
	財政部			
	教育部	一一三一	七	□
	第三帙[:]	一一九	一	□
	禮制部			
	民政部	一一一五	二	□
	法律部	一一一三	六	□
一八	第三帙[:]	一一一	二	□
	軍政部			
	第四帙[:]	一一二	一	□
	旗藩部			
	實業部	一一一五	二	□

に- 40-

	交通部	一一五	一	□
	外交部	一一一三	六	□
一九	續編大清法規大全			
	第一帙[:]	一一九	一	□
	軍政部			
	憲政部	一一六	一	□
	民政部	一一一一	一	□
	教育部	一一二〇	三	□
	吏政部	一一一七	三	□
	財政部	一一一三	三	□
	第二帙[:]	一一七	二	□
	法律部			
	現行刑律定本	一一三六	六	□
	實業部	一一一一	一	□

に- 41-

	交通部	一一二	一	□
	外交部	一一一〇	一	□
	禁烟條例 秋審條例	全一	一	□

	第三帙[:] 憲政部	一一六	一	□
	財政部	一一一三	三	□
	軍政部	一一九	一	□
	第三帙[:] 教育部	一一二〇	一	□
	吏政部	一一一七	三	□
	第四帙[:] 法律部	一一三六	七	□
	實業部	一一一一	一	□
	交通部	一一五	一	□
	外交部	一一一〇	一	□
	<b>禁煙條例</b>	全一	一	□
	<b>秋審條例</b>	全一	一	□
四一	大清光緒新法令	一類 - 一三類	二〇	計四帙
五二	大清宣統新法令	一一二〇	二〇	計二帙
五九	通商[條]約章[程]成案彙編	一一三〇	一二	□
二〇	新纂約章大全	一一七三	四八	計六帙
一〇二	五朝聖訓			
	第一帙[:] 太祖高皇帝	一一四	一	□
	世祖章皇帝	一一六	二	□
	太宗文皇帝	一一六	二	□
	世宗憲皇帝	一一一〇	六	□
	第二帙[:] 世宗憲皇帝	一一三六	一二	□
	第三帙[·]四帙[:] 聖祖仁皇帝	一一六〇	二四	計二帙
				<b>に- 42-</b>
一二九	大清律講義	<b>律服疏證四ノ一</b>	七	□
一〇九	補註洗冤錄集證	<b>聖訓經義歷代律目沿革表</b>	六	□
一二六	德意志帝國新刑律	全	一〇九	□
一五七	新譯日本法規大全	一	一	□
一五五	非常國際法論	下	一	但シ上卷缺本
一二〇	通商約章類纂	一一三三	一九	計二帙
一五六	約章述要	一	一	□
一三二	外交報	一一三五 二八	但シ一四, 二四, 二五, 二六, 二七, 二八, 三二, 缺號	
				<b>に- 43-</b>

### 第六. 武事

假番號	書名	卷	冊數	摘要
四三	讀史兵略	一一四六	一六	計四帙
四四	續讀史兵略	一一一〇	一〇	計二帙

### 第七. 天文・地理

假番號	書名	卷	冊數	摘要
三七	玉海(四庫全書) 第一帙[:] 通鑑地理通釋	一一一四	三	計一帙
二六	水經注	一一四〇	二四	計四帙

九	李氏五種					
	第一帙[:]	歷代地理韻編	一 - 二〇	八	} 計一帙 □ □ □	
		皇朝輿地韻編	上[:]下	一		
九	第一帙[:]	歷代地理沿革圖	一	一		
		紀元編	上[:]下	二		
に-45-						
二四	元豐九域志		一 - 一〇	六	□	
五一	太平寰宇記		一 - 二〇〇	三六	計六帙	
七四	元和郡縣圖志					
	第一帙[:]	第二帙[:]	元和郡縣圖志	一 - 四〇	六	□
		全補志		一 - 九	二	□
一五二	印度志		一	一	□	
一五三	印度新志		一	一	□	

### 第八. 博[博博]物

假 番 號	書 名	卷	冊數	摘要
一五〇	近世物理學教科書	一 - 九	二	□
一四四	力學課本(發問一 - 二五)	一 - 八	四	□
に-46-				
一四五	質學課本	一 - 五	五	□

### 第九. 數學

假 番 號	書 名	卷	冊數	摘要
一五四	形學課本	一	一	□
一四〇	高等小學算術教科書	一 - 三	三	□
一三九	筆算教科書	上[:]下	二	□
一六〇	心算教授法	一	一	□
一三八	心算初學	一 - 六	二	□

### 第一〇. 醫卜

に-47-

#### 第一一. 農[:]商[:]工

假 番 號	書 名	卷	冊數	摘要
一五九	中國礦產志畧鐵路簡明志	一	一	□
一二八	瀛機附錄一	一 - 一二	六	□

#### 第一二. 雜書

假 番 號	書 名	卷	冊數	摘要
一六三	書目	全一	二	□

## ウイ[キール]ヘルム・コーン遺贈支那及東洋に関する圖書目録

## A. 宗教

番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	[註]
一	ベルヒマン譯	支那ゼサイト教徒論集(佛文より)	一七七八	□
二	ワルネク	支那の教會	一九〇〇	□
三	シュミット	支那古記録参照[:] 基督教の原教理	一八三四	□
四	ツエルラア	支那基督教史と其國家及國民	一八三六	□
五	ファルケ	基督教と佛教	一八九八	□
六	エールリツヒ	佛教と基督教	一八六四	□
七	シーフナア	佛教開祖釋迦牟尼傳(西藏書より)	一八四八	□
八	ノイマン	支那佛僧の印度巡禮	一八三三	□
九	□	支那の順禮	□	□
一〇	ハツペル	古代支那の國教	一八八二	□

ほ- 2-

一一	シヨツト	支那佛教史	一八七三	□
一二	全	亞細亞高原及支那に於ける佛教に就て	一八四六	□
一三	ポーチエ譯註	支那人の一神教を論ず(佛文)	一八六一	□
一四	ド・ハルレ譯註	漢梵集要(佛文)	一八九七	□
一五	ド・グルー譯註	支那摩訶宗經典[:] 修行者及俗人に對する其感化(佛文)	一八九三	□
一六	全譯註	ギーム博物館年報(支那民教の研究)第十卷[:] 廈門の有名なる祭典(佛文)	一八八六	□
二六一	クランツ譯	救世宗教は完成せる儒教なり	一八九八	□

## B. 哲學・倫理・教育

## [I-1] 哲學

[番 號]	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註]
一七	プラート	ミンパオ・キエン著支那の哲學	一八六三	□
一八	全	古代支那人の不死論	□	□
一九	井上哲二郎	人性に關する支那哲學者の論争	□	□
二〇	クリンゲマン	佛教悲觀主義及近世人生觀	一八九八	□
二一	ノイマン	支那人の自然哲學と宗教哲學	□	□

ほ- 3-

二二	バスチアン	宗教哲學としての佛教	一八九三	□
二三	ブキツマイヤア	唐代に於ける哲學的著書	一八七八	□
二四	全	道教の尸解と劍解	□	□
二五	全	道教派の長壽	□	□
二六	シヨツト	支那博識者朱熹の論斷	□	□
二七	フアーバア譯註	列子一名古代支那の自然主義	一八七七	□
二八	グルーベ譯註	通書	一八八〇	□
二九	フル・ゴオビル譯	書經(佛文)	一七七〇	□



三〇	ド・ハレル譯	易經(佛文)	一八九七	□
三一	ケルラア,ゾダン譯	ボレル著支那の美	□	□
三二	ビヤナツキ	支那の算術	□	□
二五五	ミルニスタ	古代支那社會主義の本旨 又は哲學者墨子の説	一八七七	□
二五六	全	倫理的基礎の政治學 或は孟子の教義	一八七七	□
二六二	キューネルト	孔子の哲學	一八九五	□
二六三	ドグラス	儒教と道學	一八八九	(英文)
二六六	ブラント	支那哲學と國家儒教	一八九八	□

[I(二D)] 倫理・教育

番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註 1
三三	シヨツト譯註	孔夫子第一卷[:] 論語	一八二六	□
				ほ- 4-
三四	プレクナア譯註	中庸	一八七八	□
三五	フォン・シトラウス	老子の道德經 第十四章	□	□
三六	スタニスラフ・ヂュリアン譯	老子道德經(佛文)	一八四二	□
三七	レオン・ド・ロスニイ	孝經(佛譯)	一八八九	□
三八	カレリー譯	禮記(佛文)	一八五三	□
三九	北京佛國公使館付通譯官 カミユウエ アムボールユアール註	朱柏盧原著家庭の教訓(佛文註)	一八八一	□
四〇	フランシス・ダヴキス譯	賢文書(英文)	一八二三	□
四一	ワレンヂアニ譯註	孝行往來(伊文)	一八七三	□
四二	遠藤秀三郎	孔子の生涯と其教育學的意義	一八九三	□
四三	ザツハウ	伯林大學東洋語學校開設報告	一八八八	□
四四	エドモンド・ビオ編	一八四四年十月廿一日 王室大學會議報告の抜粹(佛文)	□	□
四五 <sup>二</sup> 六五	ロエツトガア	妄天地會[魯會]	一八五二	□

ほ- 5-

C. 言語學・辭典

番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註 1
四五	ヘンケル編	支那の言語と文學(ドグラスの講義に基き)	一八七七	□
四六	ヒルト	口語及文語に於ける支那語	一九〇二	□
四七	ガベレンツ グルーベ	支那語文法附録列子の語解	□	□
四八	アンリー[・]コルデキエ編	巴里東洋語學校教授 フランソワ・ヴアロ著 支那文典(佛文)	一八八七	□
四九	ハルー	支那官話文法(佛文)	一八八四	□
五〇	スタニスラフ[・]ヂュリアン	支那語章句法及言語學解剖の實地練習(佛文)	一八四二	□
五一	レオン・ド・ロスニイ	支那語發音表(佛文)	一八五七	□
五二	エム・バザン	支那語俗語の一般的方則に關する記憶(佛文)	一八四五	□
五三	アベル・レミュザ	支那人の外國語研究(佛文)	□	□
五四	ホウポルト	支那語文法の一般的法式と其の特質に關し アベル・レミュザ氏に與ふる書(佛文)	一八二七	□
五五	キユウプラート	古代支那の音律語	□	□

ほ- 6-

五六	キューネルト	南京の支那語	□	□
五七	クラブロート	亞細亞の文學歴史言語學研究 第一卷	一八一〇	□
五八	□	漢字變符法(漢字を電信符號に變する法)	□	□
五九	アンドレア[・]ガイガア	漢字文法書廣總目	一八六四	□
六〇	シヨット	安南文章及言語學論	一八五五	□
六一	レランド	ピチン英語	□	□
六二	石齊[齊齋]主人編	華英字典(英支辭典)	一八八六	□
六三 <sub>1</sub>	グードリヒ	支英辭典書	一八九一	□
六四 <sub>3</sub>	全	支英辭書索引	一八九三	□
四〇四 <sub>2</sub> 五七	クーヴリユール	支佛字辭典	一八九〇	□
二六九	ガベレンツ	支那文法	□	□

#### D. 法律・軍事・政治・經濟

ほ- 7-

番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註
六四	プラート	往時支那に於ける法律と法典	一八六五	□
六五	スタウントン譯	大清律例重訂(支那刑法法典[]) (英文)	一八一〇	□
六六	コーラア	支那刑法	一八八六	□
六七	モエルレンドルフ	支那親族法	一八九五	□
六八	ウルシンプルスチンスキ	ブチヤタ著「支那の兵力」	一八九五	□
六九	アベル・レミューザ	亞細亞の新混合 第二卷(佛文)	一八二九	□
七〇	ド・ラネサン	印度支那に於ける佛國の殖民(佛文)	一八九五	□
七一	マイヤース譯註	支那政府(支那官制詳解) (英文)	一八九七	□
七二	ダアエ	支那に於ける地租(英文)	□	□
七三	ロストホルン	支那勢力の西南發展	一八九五	□
七四	ヒロル譯	東亞の形勢	一八九七	□
七五	ブランド	東亞の將來	一八九五	□

ほ- 8-

七六	全ブランド	東亞問題	一八九七	□
七七	全	殖民地と海軍力問題	一八九七	□
七八	□	支那團匪と歐洲外交	一九〇〇	□
七九	シャイベルト少佐	支那の戦争(竝に支那の習慣及歴史)	□	□
八〇	ホフマン	獨逸殖民の行政竝に裁判所組織	一九〇八	□
八一	ジンガア	東亞に於ける經濟事情	一八八八	□
八二	グルンツエル	最近廿五年間に於ける支那の商業的發達	一八九一	□
八三	シュワーベ	支那帝國の交通事情	一九〇〇	□

#### E. 歴史・地理

##### [(I)-(D)] 歴史

番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註
八四	ダベルツホーフエル譯	支那史實(葡萄文より)	一六一一	□
八五	ア エス 共著	支那全史 第一卷[・]第二卷(佛文)	一八九三六〇	□

ほ- 9-

八六	ブルガア	支那小史(英文)	一八九三	□
八七	フアアバア	支那歴史考證	一八九五	□
八八	メボルド譯	ポーテノール著支那	一八三九	□
八九	フォン・デア・カビツツベレンツ <sup>2</sup>	支那大遼史	一八七七	□
九〇	□	歴史的藝術的支那	十九世紀初?	□
九一	ブキツマイヤア	晉の永康年代史	□	□
九二	全	隋朝に關する諸外國	一八八一	□
九三	全	支那遊説家系(蘓[蘓]秦[・]張儀[・]范雎)	一八六〇	□
九四	全	古代支那に於ける火の利用及故事	一八七〇	□
九五	全	古代支那に於ける貧富	□	□
九六	全	支那工具器具に關する故事	一八七三	□
九七 <sup>a1a</sup>	デイネルト譯	ドギイニユ著匈奴土耳其蒙古泰西韃靼史 第一卷	一七六八	□

ほ- 10-

九 <sup>b2-4</sup> 全 <sup>1b-4</sup>	全	全著匈奴土耳其モゴル及其の他の韃靼史 第一卷 - 第四卷(佛文より)	一七七〇	□
九八	コイツフアア	アブラハム時代前の支那國民	一八五〇	□
九九	ビユルケ	マルコ[・]ポロの旅行	一八四五	□
一〇〇	グラデイツシュ	世界歴史理解の槩 第一部[:] 古代支那人とピタゴラス學徒	一八四一	□
一〇一	ド・パラヴェー	支那と交渉[交渉]あるアマゾン(佛文)	一八四〇	□
一〇二	ハース博士	支那と東ローマ帝國との干[干]關係(英文)	一八八五	□
一〇三	フオルシア・デユルバン	乾隆皇帝論(佛文)	一八四一	□
一〇四	オット譯	支那に於ける暴動(長髮賊)	一八五四	□
一〇五	ノイマン	鴉片戰爭	一八五五	□
一〇六	ノイマルク	支那に於ける革命	一八五七	□
一〇七	ロツホ	支那征戰 最後の事件	一八四四	□
一〇八	ウキツトシタイン譯	羅針盤の發明に就て	一八八五	□

ほ- 11-

一〇九	ピバア	支那形象之文字に於ける世界及人生の起原	一八四六	□
一一〇	プラート	支那帝國の永續と發達に就て	一八六一	□
一一一	全	往時支那人の稼業	一八六九	□
一一二	全	往時昔支那人の衣食住	一八六八	□
一一三	□	コリン著 骰子及ドミノ札を用ふる支那の【遊】戲(英文) 一八九五 シュレーゲル著 歐洲に於ける支那の習慣と遊戯(獨文) 一八六九	一八九五	□
一一四	ド・ハルレ	嘉慶皇帝時代の軍紀(佛文)	□	□
一一五	全譯	皇文集(佛文)	□	□
一一六	全譯註	支那の嬰兒殺(佛文)	一八八五	□
一一七	ハウグ	支那賢人孔子	一八八〇	□
一一八	ヂエームス・レッツゲ譯	法顯傳(英文)	一八八六	□
二六四	ヘルマン[・]ヒスマーク	北京の包圍	一八八五	□
二六七	ステント	支那の宦官	□	□

二七二	パラヴェー	猶太の古名及象形名に関する論説(佛文)	一八六三	□
一一九	ムル	支那に於ける猶太人史	一八〇六	□
一二〇	倫敦猶太人傳道教會	開封府に於ける猶太人(英文)	一八五一	□
一二一	アンリイ・コルデイエ	支那に於ける猶太人(佛文)	一八九一	□
一二二	カツツ	支那に於ける猶太人	一九〇〇	□
一二三	ヒルト	支那東洋大學	□	□
一二四	サムソン、ヒムメルス、チエルナ メツツガア	「東西の反對」 「黃白種族の將來の戰」	一八九七	□
一二五	エンドリツヒヤア	和漢錢志	一八三七	□
一二六	ヂヤイルス	支那古今姓氏族譜(英文)	一八九八	□
一二七	ルーレロ	支那百年曆(一七七六 - 一八七六) (英文)	一八七二	□
一二八	□	一八五七年度上海年鑑(英文)	□	□
一二九	□	東洋學者の國際會議(一八九七年於巴里)(佛文)	一八九七	□

## [(二)] 地理

番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註 1
一三〇	エズワール・ビオ編	支那地名字典(佛文)	一八四二	□
一三一 <sup>1-5</sup>	デュ・アルド	支那及韃靼志 第一 - 第五卷(佛文) (之六歴史ニ續入)	一七四七	五册
一三二	ビシヨフ・ウキ ツダアシタイン	地理學上より見たる支那	□	□
一三三	ペタアマン	一八六七年天山山脉[脈脈 <sup>2</sup> ]系研究	一八七五	□
一三四	ムブライトシユナイダア	北京平野と近隣山地	一八七六	□
一三五	アンドレアス ミユルレルス	支那事情(拉丁文)	一六七四	□
一三六	ルイ・ル・コント譯	今日の支那(佛文より)	一六九九	□
一三七	ジュウル・アレイヌ	支那(佛文)	一八八三	□
一三八 <sup>1-2</sup>	ピシアアル譯	デ・ヴィス著支那 第一卷[・]第二卷(佛文)	一八三七	二册
一三九 <sup>1-2</sup>	ポオシユ バザン	近代支那 第一卷[・]第二卷(佛文)	一八五三	二册
一四〇	□	新支那(佛文)	□	□

一四一 <sup>1-2</sup>	ホウグ譯	支那帝國 第一卷[・]第二卷	一八五六	二册
一四二 <sup>1-2</sup>	アーベル メクレムブルグ	北京露國公使著支那事情 第一卷[・]第二卷	一八五八	二册
一四三	クレム	中國支那	一八四七	□
一四四	□	支那と支那人	一八五九	□
一四五	シユルツエ譯	支那チエン・キ・トン將軍著支那及支那人	一八九六	□
一四六	ルーシトラアト	中國より(支那風俗)	□	□
一四七 <sup>1-2</sup>	オブルチエウ	支那より 第一卷[・]第二卷	一八九六	二册
一四八	コルマン譯	ウキリヤムス著支那帝國と其住民	一八五四	□
一四九	プラート	滿洲住民 第二卷	一八三一	□
一五〇 <sup>ab</sup>	ブランド	辨[辨辯]髮の國より	一八九四	二册
一五一	ブランド	支那國民研究[・] 少女と夫人	一八九五	□
一五二	シモン譯	支那の社會[・] <sup>2</sup> 政治宗教生活(英文)	一八八七	□

## ほ- 15-

一五三	カツチャア	支那生活の一斑	一八八一	□
一五四	シユロエサア	譯 ガイル著支那スケッチ	一八八〇	□
一五五	イ・エ・ライプエルト	支那に於ける十年	一八九六	□
一五六	ギユツツラツク	支那通信	一八五〇	□
一五七	ピーパア	雑草と芽と花(中華の國より)	一九〇八	□
一五八	ハイグル	支那の宗教と文明	一九〇〇	□
一五九	マチギヨス軍醫正	支那の迷信(罪惡と慘狀) (佛文)	□	□
一六〇	ヒヅ・ハルレ	譯 家裏(支那人家庭の儀式) (佛文)	一八八九	□
一六一	アレキサンダア	支那風俗圖解(英文)	一八三一	□ 三冊
一六二 <sup>1-3</sup>	□	廣東漫録 第二[・]第四[・]第五(英文)	一八三一	三冊
一六三	エリツリン伯爵	支那に於ける一通譯の日記(支那視察記) (佛文)	一八八六	□
一六四	アベル・レミューザ	亞細亞見聞録(佛文)	一八二九	□

## ほ- 16-

一六五	ヒルト	イスラムの國々(支那記録に據る)	一八九四	□
一六六	ハルトマン	イスラムの東洋 第二[・]第三	一九〇〇	□
一六七	ニテノボル シト中尉	支那秘密團體[:] 天地會(英文)	□	□
一六八	エルヴェ・サン・デニ	譯 支那通俗文庫 第三十編(佛文)	一八九二	□
一六九	ヒユットネル	譯 ジョハン、パウロ・アロウ共著支那紀行(英文より)	一八〇四	□
一七〇	バスチアン	支那旅行	一八七一	□
一七一	ツエンカア	譯 フォーチユーン著一八四三 - 四五年間支那内地旅行	一八五四	□
一七二	コウヘロンアアモート	支那人の國を巡りて	一八九八	□
一七三	シユロエダア	廣西省旅行記	□	□
一七四	シエワルツ	譯 ベウツアウル著西部支那旅行[:] 青江の流にて	一八八〇	□
一七五	ゴールドマン	支那の一と夏 第一卷	一八九九	□
一七六	テエス エス	譯 ドウブルジユ著ブリティ僧正支那旅行談(佛文より)	一六七一	□

## ほ- 17-

一七七	ベエテル オスベツク	譯 ゲオルギイ著東印度及支那紀行(瑞丁文より)	一七六五	□
一七八 <sup>1-2</sup>	シタウトン	マカアトネイ伯邊遣支旅行 <small>第二編 第三編</small>	二七九九	二冊
一七九	□	支那遣支旅行(十八世紀末葉)	□	□
一八〇 <sup>1</sup>	ミユルラア	譯 ドギーギユ著 <small>一七八四 - 一八〇一年間</small> 第一卷[:] 北京への旅	一八一〇	□
全 <sup>3</sup>	全	全 第二卷[:] マニラ及イスル・ド・ス[スフ <sup>2</sup> ]ランスへの旅	全	□
一八一	ウキルダ	香港よりモスコウへ	一九〇二	□
一八二 <sup>1-3</sup>	ギーギユ	北京馬尼羅及佛蘭西島旅行記 第一 - 第三卷(佛文)	一八〇八	三冊
一八三	全	支那旅行畫帳(佛文)	□	□
一八四	コワ <sup>2</sup> ングニイ	譯 支那及ベンガル旅行	一八〇一	□
一八五	エーラアス	印度支那鞍上跋涉 第一卷	一八九六	□
一八六	ウオベザア	譯 コルクハウン著黃金國跋涉 第一卷[:] 南支那境界地方及ビルマ	一八八四	□
一八七	クレンチュ	譯 クウパア著支那より印度に至る陸路の探險(英文より)	一八七七	□

一八八(1)	シユミット譯	チムコウスキ著	一八二〇 - 二一年蒙古より支那へ 第一卷[:]	北京旅行 一八二五	□
一八八(2)	全	全	第二卷[:]	北京滞在 一八二五	□
全 (3)	全	全	第三卷[:]	<del>支那への歸路</del> と蒙古一瞥 一八二六	□
一八九	マルチン譯	ロバアト・シヨウ著	韃靼及カシユガル紀行	一八七二	□
一九〇	キユルブ	ピントの支那	韃靼暹羅ペグ冒険旅行	一八六八	□
一九一	□	ユツク及ガベエ著	蒙古西藏紀行(佛文より)	一八七四	□
一九二	アルビン・コオン譯	プルセワルスキイ著	蒙古紀行(露文より)	一八八一	□
一九三	リンデンベルグ	世界一週[週周] 第二編[:]	支那[・]日本[・]ホノル、[・]北米	一九〇〇	□
一九四	ハツタア	極東便り		一八九八	□
一九五	<del>オイレシブルグ</del>	一八六〇 - 六二年	オイレシブルグ伯東亞通信	一八六四 - 一九〇〇	□
一九六	オツパアト	東亞旅行		□	□
一九七	スピイス	一八六〇 - 六二年に於ける	普魯西の東亞遠征	一八六四	□

一九八 <sup>1-3</sup>	ハイネ	支那日本オホツク海探險 第一卷[・]第二卷[・]第三卷		二六五九	三冊
二七〇	グルーベ	北京葬式慣例		一八九八	□

## F. 自然科学・醫學・農工業

〔番 號〕	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註 〕
一九九	フオン・デア・ガレ	ベレンツ譯	支那太極圖	一八七六 □
二〇〇	ストウル	支那及印度星學の起原と故事研究	一八三一 □	
二〇一	シユレーゲル譯	星辰考源(支那星體學) 第一卷(佛文)	一八七五 □	
二〇二	プキツマイヤア	支那の樹木昆蟲の考證	一八七四 □	
二〇三	全	支那の樹木	一八七五 □	
二〇四	マルテンス	普魯西東亞遠征報告 植物の部[:]	海草類 一八六六 □	
二〇五	ダルビー大尉	支那の醫法(佛文)	一八六三 □	
二〇六	プキツマイヤア	支那食物の毒物論	一八六六 □	
二〇七	全	支那果實の考證	一八七四 □	

二〇八	□	支那内地絹及茶地方(英文)	一八四五 □
二〇九	シヤムピオレ譯註	古代及近代の支那帝國工業	一八六九 □
二一〇	<del>スタニスラ</del>	譯 支那陶器の由來と其製法附日本陶器ニ關スル記憶(佛文)	一八五六 □
二五八	シユレーゲル	支那天體圖(佛文)	一八七五 □
二六〇	シユンキン	支那及歐洲に於ける農業	一八九三 □

## G. 文學・美術・音樂

〔番 號〕	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註 〕
二一一	シヨツト	支那文學講義	一八五四 □	
二一二	全	支那作詩術に就て	一八五七 □	
二一三	イグナチイ・ケン	<del>グレン</del> リグレリ 康熙帝の欽定文書(拉丁文)	一八〇二 □	
二一四	ゴツトシヤル	支那の劇と戲曲	一八八七 □	

二一五	張之洞	支那の劇場	一八八六	□
二一六 <sup>1-5</sup>	□	ダルジャン候[候侯]爵著支那論集 第一 - 第五卷(佛文より)	一七六八	五册

ほ- 21-

二一七	バザン・エイネエ譯	支那劇(佛文)	一八三八	□
二一八	バザン・エイネエ譯	琵琶記(佛文)	一八四一	□
二一九	□	支那戯曲「老世子」(英譯)	一八一七	□
二二〇	ヌタニシラ譯	西廂記(佛文)	一八七二 - 八〇	□
二二一	全	灰闌記(佛文)	一八三二	□
二二二	全	趙氏の孤兒(佛文)	一八三四	□
二二三	□	好逑傳(?) (英文より)	一七六六	□
二二四	ダルシー譯	好逑傳 (佛文)	一八四二	□
二二五 <sup>1-2</sup>	フランシス・ダウキス譯	好逑傳第一卷[・]第二卷	一八二九	二册
二二六 <sup>1-4</sup>	レミューザ譯	玉嬌梨 第一 - 第四卷(佛文)	一八二六	四册
二二七 <sup>1-4</sup>	□	アベル・レミューザ譯支那小説「遊郊里」一名二人從姉妹 第一 - 第四卷(獨譯)	一八二七	四册
二二八	シュレーゲル	賣油郎獨占花魁(佛支文)	一八七七	□

ほ- 22-

二二九	ウエルネ	一支那人の悩み	□	□
二三〇	アドルク[ヌフ]・エルリセン譯	支那韻文	□	□
二三一	ハインリツヒ・クルツ譯	花□[白瓣 <sup>?</sup> ](支那語詩)	一八三六	□
二三二	アミオ譯	乾隆帝著奉天詩(佛文)	一七七〇	□
二三三	プラート	唐詩二集	一八六九	□
二三四	フオルケ譯	漢及六朝の詩華	一八九九	□
二三五	ア・ヴキツシエール譯註	航海吟草(佛支文)	一九〇〇	□
二三六	ザイデル	亞細亞國民文學歌謠集	一八九八	□
二三七	孟氏重譯[ <sup>?</sup> 重譯 <sup>?</sup> ]	イソツブ物語(意拾喩言) (英支文)	一八四〇	□
二三八	ミチイ	添皿(英文)	一九〇八	□
二三九	ブキツマイヤア	往時支那に於ける技巧と藝術	□	□
二四〇	デュ・シユズヌバン	極東の美術(佛文)	一八九七	□

ほ- 23-

二四一	パレオローグ	支那の美術(佛文)	一八八七	□
二四二	ヒルト	支那の繪畫	一九〇〇	□
二四三	ヒルト	外國の影響を受けたる支那美術	一八九六	□
二四四	ソームス	古代支那花瓶論(英文)	一八五一	□
二四五	□	花鳥圖繪下(日本書[])	文政十年	□
二四六	ワアゲナア	支那音樂理論	一八七七	□
二四七	ノイマン	音樂史	□	□
二五九	ミュンスタアベルグ	東亞の美術工藝と歐羅巴	一八九五	□
二七一 <sup>ab</sup>	コーンアンテノリツド	支那の音樂美	一九〇三	二册

H. 雜件・雜誌

番 號	著 譯 者 名	書 名	發 行 年 代	註 記
二四八 <sup>1-10</sup>	北京宣教師	隨筆 第一卷 - 第十卷(佛文)	一七八〇	一〇册
				ほ- 24-
二四九	シヨツト	御書房滿漢書廣録	一八四〇	□
二五〇	□	雜録(歐羅巴と支那, 文明の敵, 坐花D)] (佛文)	□	□
二五一 <sup>1-3</sup>	アンリ・コルデキエ編	極東雜誌 第一卷 - 第三卷(佛文)	二六六三	一八八四 三册
二五二 <sup>1-4</sup>	クラブロート編	亞細亞雜誌 第一卷第六號 - 第二卷第一[・]第二[・]第三號	一八〇二	四册
二五三	玉井喜作主幹	「東亞」第一年	一八九八 - 九九	□
二五四	□	英國亞細亞協會北支那支部雜誌(一八六九 - 七〇年度)(英文)	□	□
二六八	□	支那及日本に關する出版目錄(歴史・地理・人類學・旅行・言語學・藝術・地圖)	一八九八	□

以上 二百七十二部  
三百廿四册

#### ■ «追記»

前號入稿後に得た知見は多々有るものの、その詳細に就ては後日公表豫定の“獨逸租借期青島所藏書籍在日現藏書籍豫備調査簡報(I)”(假題; 2008年度)に譲ることとし、此處では前號作製時に犯した語句入力上の誤りを訂正すると共に、所謂“ウキルヘルム・コーン叢書”藏書票とこれに附隨する問題に就て前號以降判明したこと竝に東京帝國大學宛寄贈書籍に就ての概容調査に就き、この場を借りて簡介しておく。

#### ◆語句の訂正(“所用略號・引用論著目錄”追加分を含む)

- 脚註<sup>9</sup>(4頁下から第2行目): 誤 49 機關・組織 → 正 50 機關・組織
- 脚註<sup>9</sup>(5頁第2行目から第8行目):  
  - 誤 16. 陸軍東京砲兵工廠 17. 陸軍被服本廠 ... 50. 青島官廳(守備軍<sup>2</sup>)殘置書籍
  - 正 16. 憲兵司令部 17. 陸軍東京砲兵工廠 18. 陸軍被服本廠 ... 51. 青島官廳(守備軍<sup>2</sup>)殘置書籍
- 本文6頁下から第3行目: 誤 “膠澳潮平合同” → 正 “膠澳潮平合同”
- 脚註<sup>25</sup>(7頁下から第12行目): 誤 erwirdern → 正 erwiedern
- 本文8頁第21行目, 12頁第15行目, 13頁第10行目, 22頁第12・第16・第19行目, 23頁第18行目:  
  - 誤 總督府圖書館 → 正 膠州總督府行政院圖書館
- 本文9頁第18行目: 誤 ディートリッヒ → 正 ディーデリッヒ
- 本文10頁第11行目: 誤 Rechtswiffenschaftlich → 正 Rechtswissenschaftlich
- 本文11頁末行: 誤 [Käte geb. Bafchwitz] → 正 [Käte, geb. Bafchwitz]
- 本文12頁第13行目: 誤 山東鐵道 → 正 山東鐵路
- 脚註<sup>86</sup>(13頁下から第16行目): 誤 Erdgeschoss → 正 Erdgeschoss[es]
- 脚註<sup>93</sup>(14頁下から第25行目): 誤 zeit- → 正 Zeit-      •脚註<sup>93</sup>(14頁下から第8行目): 誤 jahre → 正 Jahre
- 本文16頁第15行目: 誤 推測 → 正 假記      •本文18頁第3行目: 誤 開室 → 正 開設
- 脚註<sup>105</sup>(18頁下から第26行目): 誤 Kiautschou-Bibliothek. → 正 Kiautschou-Bibliothek.
- 脚註<sup>121</sup>(21頁第22行目): 誤 聖靈降誕節 → 正 聖靈降臨節
- 本文22頁第3行目: 誤 海岸通 → 正 カイザー・ヴィルヘルム海岸通
- 本文23頁第10-1行目: 誤 Conseille[u]r d’Ambassade → 正 Botschaftsrat
- 脚註<sup>138</sup>(24頁下から第11行目): 誤 ウイリー=コーン → 正 ヴィリー=コーン
- 本文25頁第7, 第15, 下から第20行目: 誤 “一八〇八” → 正 “一八〇八”
- 本文26頁第3行目: 誤 前掲③ → 正 前掲<3.>      •本文26頁第11行目: 誤 前掲③ → 正 前掲<2.>
- 脚註<sup>153</sup>(27頁下から第8行目): 誤 Belfert=Nettelbeck → 正 Belfert=Nettelbeck
- 本文28頁第12行目: 誤 vorantwortlich → 正 verantwortlich      •本文33頁下から第19行目: 誤 ab- → 正 Ab-



- 本文29頁第30/31行目: **追加**電網頁«東大OPAC»; “東京大學OPAC 藏書目錄データベース”[https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/basic-query?mode=2 (2007.XII.1.-2008.II.10.閲覧)]
- 本文32頁第15/16行目: **追加**持井・古市・Scherrmann 2007.; 持井康孝・古市大輔・Sylke Scherrmann: ‘獨逸租借期青島所藏書籍目録: I’, *金大文論集* 27. (史・地・考) 2007., 1-160頁.
- 本文34頁第5/6行目: **追加** *金大文論集* (史・地・考); “金澤大學文學部論集: 史學・地理學・考古學篇”, 第17- 第27號. 1997-2007年, 金澤大學文學部.
- 全 : **追加**寄贈名簿1923<sup>+</sup>; “寄贈記名簿 和(1)A-M”, 1923年-, 東京大學總合圖書館所藏.
- 本文34頁下から第19/20行目: **追加**震災焼殘本文・醫(和洋)1929<sup>+</sup>; “震災焼殘本 文・醫(和洋)”, 1929.X.<sup>+</sup>(和), 1930.X.<sup>+</sup>(洋), 東京大學總合圖書館所藏.
- 本文34頁下から第10行目: **誤** Presschrift→**正** Preisschrift
- 本文34頁下から第1/2行目: **追加**東大中哲中文研書目 1965.; 東京大學中國哲學中國文學研究室(編): “東京大學文學部中國哲學中國文學研究室藏書目録 附書名通檢”, 東京大學文學部研究報告第一 昭和三十九年, 1962[昭和37]年3月現在, 1965[昭和40]年3月, 東京大學文學部[非賣品].
- 本文35頁第4/5行目: **追加**東京帝大・文・原簿<sub>1-6</sub>.1923.-1926.; “東京帝國大學文學部圖書受入原簿”, 6冊(1.大正十二年度 自大正十二年度 L1-3380, 2.大正十三年度 L3381-6710, 3.大正十三年度 L6711-9910, 4.大正十三年度 L9911-13040, 5.大正十四年度 L13041-16180, 6.大正十四年度 L16181-19014), 東京大學總合圖書館現藏.
- 全 : **追加**東京帝大・附圖・原簿<sub>1-4</sub>.1923.-1926.; “東京帝國大學附屬圖書館圖書受入原簿”, 4冊(1.大正十二年度<sub>1-2550</sub>, 2.大正十三年度<sub>2551-13160</sub>, 3.大正十四年度<sub>13161-22165</sub>, 4.大正十五(昭和元)年度<sub>B22166-24417</sub>), 東京大學總合圖書館現藏.
- 全 : **追加**東京帝大五十年史<sub>上/下</sub> 1932.; “東京帝國大學五十年史”, 上・下冊, 1932[昭和7]年11月, 東京帝國大學[非賣品].
- 本文35頁第10/11行目: **追加**燒殘本文・醫(和洋)1929<sup>+</sup>; “震災焼殘本 文・醫(和洋)”, 和: 1929.X.24.登記<sup>+</sup>, 洋: 1930.X.22.登記<sup>+</sup>, 東京大學總合圖書館所藏.
- 全 : **追加**燒殘本(和書)1939<sup>?</sup>; “[本館震災]燒殘本(和書)大正十二年以前”, [19]39.XII.3.<sup>?</sup>調整<sup>?</sup>, 東京大學總合圖書館所藏.
- 全 : **追加**燒殘本(洋書)1939.; “[本館震災]燒殘本(洋書) 大正十二年以前”, [19]39.XII.3.調整, 東京大學總合圖書館所藏.
- 全 : **追加**山本・高橋 1985<sup>?</sup>: 山本 仁・高橋良政(編): “東京大學文學部漢籍コーナー所藏清版目録(一)”, 1985[昭和60]年3月末日現藏, 東京大學文學部漢籍コーナー.
- 全 : **追加**山本・高橋 1988.: 山本 仁・高橋良政(編): “東京大學文學部漢籍コーナー所藏清版目録(二)”, 1988[昭和63]年6月, 東京大學文學部漢籍コーナー.
- 本文36頁末行: **追加** 15.: 原本では書套の“帙”字を“秩”字と多々誤るも, これに就ては全て“帙”字に改めた.

#### ◆所謂“ウキルヘルム・コーン叢書”藏書票とこれに附隨する問題

“1922[大正11]年5月30日附東京駐在獨逸國臨時代理大使レンナー發外務大臣内田康哉宛書翰(日語譯)”所載の如下記事に所謂“「ウキルヘルム・コーン寄贈」ナル文字ヲ記入セル圖書票”とは, «挿圖 1a.»の如きも  
 ・“… … 今[20]世紀ノ初メ物故セル「ウキルヘルム(ウキリー)コーン」ハ 其遺言狀ニ依リ 同人ノ東亞(即チ日本及支那)ニ關スル多數藏書ヲ獨逸膠州租借地ニ寄贈致シ候… … 各寄贈書籍表裝ノ内面ニ 書籍番號ノ外 「ウキルヘルム・コーン寄贈」ナル文字ヲ記入セル圖書票 貼付シアリ候, 尙圖書目録[“膠州總督府行政院藏書目録”<sup>2)</sup>]ニモ 右寄贈圖書ニ付テハ 符號(W.C)ヲ附シアリ候… …<sup>5)</sup>のを指すと想われる.<sup>6)</sup> 當該藏書票(«挿圖 1a.»)は, 青島守備軍所製「函書・圖目」1920.に於て下記の如く記

<sup>5)</sup> «大正八年以降函獲書籍»所綴“在青島舊獨逸圖書館書籍讓渡方ニ關スル件”(持井・古市・Scherrmann 2007., 23頁).

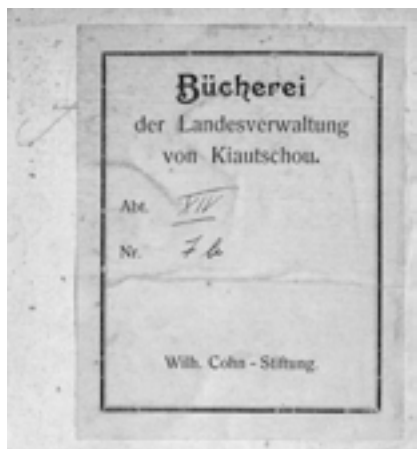
<sup>6)</sup> 尙, 當該藏書票は, 例えば, “二六二(I-III<sup>ab</sup>) グローテフエンド 普魯西普[普拉]に獨逸帝國の法文適用及解釋に關する布告 第一卷・第二卷・第三卷 (二九〇三 一八九六 第三卷ハ二冊)”(「函書・圖目」1920., い-35 頁; 前號55

載された書冊のオモテ表紙ウラに貼られていたものである。当該書冊に対する青島守備軍の分類は“官  
 ・“一五〇二 □ 廣東漫録 第三 一八三一 (英文)”(『函書・圖目』1920., い-197 頁; 前號101 頁; The Canton Miscellany. No. 3., China 1831.; 膠州總督府行政院圖書館舊藏, 東京大學文學部中國思想文化學  
 研究室現藏)

有洋書”乍ら, 全守備軍が“ウキルヘルム・コーン叢書”(『函書・圖目』1920.所收)として分類した書冊中にも  
 同名書冊が下記の如く記載されていて, 其處に“第三冊”を缺くことに據れば, その具體的背景に就ては

・“一六二<sup>1-3</sup> □ 廣東漫録 第二[・]第四[・]第五(英文) 一八三一 三冊”(『函書・圖目』1920., ほ-15 頁;  
 當號64 頁)

諸種の推測が可能乍ら, 青島守備軍による当該諸書冊の分類時點に於て既に何らかの混亂が生じていた  
 結果と看做す可きであろう。因に, 当該廣東漫録第三冊に於ては, その扉マエ遊紙オモテ天部小口寄りの  
 箇處に, “<sup>Cohn Wi-Il</sup>官爲禮”なる縦書の書込が朱鉛筆で記されている(≪挿圖 1b.≫)。同じ朱鉛筆による筆蹟(恐らく  
 アルファベットの一部であろう)が当該藏書票によって覆われていることに據れば(≪挿圖 1a.≫), 当該朱  
 書が当該藏書票貼附前に記されたことは確實で, 推測を遅くすれば, 或は彼コーン自身の筆蹟なので  
 ほとも想うものの, 孤例故, その判断は別證の出現を待つて行ないたい。



≪挿圖 1a.≫ (大約5/9)



≪挿圖 1b.≫ (大約3/4)



≪挿圖 2.≫ (大約3/5)

#### ◆東京帝國大學宛寄贈書籍に就ての概容調査簡報

調査者(調査年月日): 持井('07.XII.18., 20-21., '08.I.21.-26., I.31.-II.2., 4.), 古市('07.XII.18.),

Scherrmann('07.XII.18., 20-21., '08.I.21.-26.)

調査対象(地點): 青島守備軍發東京帝國大學宛寄贈書籍(本郷; 東京大學總合圖書館・全大學文學部圖書室[法文  
 2 號館・文學部 3 號館]<sup>7</sup>・全文學部中國思想文化學研究室・全學部中國文學研究室・全學部漢籍コ  
 ーナー[孰れも赤門總合研究棟])

青島守備軍寄贈用臺帳の有無:

BVdKB 1914-20.・『函書・圖目』1920.: 無.<sup>8</sup> “全學カード目錄”(著者名順)の簡査に於ても未搜到。

頁; Die Erlasse zur Ausführung und Erläuterung der Gefetze des preußischen Staats und des deutchen Reichs 1809-1895[:] Aus den amtlichen Veröffentlichungen der preußischen und der Reichs-Central-Behörden zu den einzelnen Gefetzen zusammengestellt und herausgegeben von G.A.Grotefend Geheimer Regierungsrath Dritte, ganz neu bearbeitete Auflage von „Grotefends Kommentar“ Erfter Band 1809-1877, Druck und Verlag von L.Schwann, Düsseldorf, 1895.; 膠州總督府行政院圖書館舊藏, 京都大學附屬圖書館現藏)を始めとする諸書に於て, このうちの“Wilh. Cohn-Stiftung.”部分を“~~Wilh. Cohn-Stiftung.~~”の如く, 筆壓強きペンを以て消去した訂正を施したうえで, 膠州總督府行政院圖書館に於て轉用されている。

<sup>7</sup> 法文1 號館在設文學部保存書庫に就ては未調査。

<sup>8</sup> 原 香壽子氏(總合圖書館情報サービス課利用者サービス係)の御教示に據る。尚, 風巻みどり・和田洋一(文學部圖書室)・春原由樹(中國思想文化學研究室)・石川 洋(漢籍コーナー)の諸氏も, 当該兩冊は見かけずとの由。

『函書追目』1920・『膠圖藏目補』1920-22・『函書目訂表』1920-22.: 未調査.

【概容簡査<sub>1</sub>】 既知の消息に基き,<sup>9</sup> 首<sub>2</sub> 如下2 點を確認した.

①『膠圖藏目補』1920-22.に於て東京帝國大學宛である旨明記された書籍(50 餘點)と同名の総合圖書館所藏書籍に就き, そのうちの5 點(舊號<sup>15332</sup>/新號2299, 舊號<sup>15456</sup>/新號2312, 舊號<sup>15462</sup>/新號2317, 舊號<sup>15568</sup>/新號2365, 舊號<sup>17519</sup>/新號2605)を抽出してこれを電網頁「東大 OPAC」所載配架番號に従つて捜し, その孰れもが『膠圖藏目補』1920-22. 所錄膠州圖書館舊藏本であることを藏書印に據り確認.<sup>10</sup>

②東京帝大・附圖・原簿<sub>3</sub>.1925-1926.(簡稱“附圖・原簿<sub>3</sub>”; 基本はペン書乃至打字登記)を借覽し, その1925[大正14].X.30.附で登載された當該歐文書籍總數が585 點(登記番號17629-18213; 後掲移管・遺失本を含む; ペン書)なる旨を確認したうえで, このうちの約1 割に當る60 餘點を無作為に抽出・簡査し, これが當該“附圖・原簿<sub>3</sub>”所載函架番號と同位置に配架・現藏されていることを確認.

但, “附圖・原簿<sub>3</sub>”には, それが青島守備軍からの寄贈本であることを明示する語句は無く, その初行(登記番號17629)と末行(218213)の「備考」欄に各々“青島本之より”・“青島本之迄”の如き諸字を鉛筆で註記するのみで, 上記抽出60 餘點(背表紙は全て改装; 表紙改装本も有り)<sup>11</sup>上にも青島守備軍からの寄贈を示す寄贈印や寄贈票の類は皆無であり, 更には青島在設藏書機關に於る痕蹟皆無の書冊をも幾點か見かけた.<sup>12</sup> 然し, 東京帝國大學附屬圖書館宛寄贈名簿1923<sup>+</sup>には, 當該歐文書籍と同一の諸書名が“青島本”なる項目の下に打字収録されており, 當該歐文書籍には基本的にその獨逸側藏書印・書込, 及び日本側青島守備軍の整理票等々が鈴・記・貼附されているので, 當面, 當該歐文書籍は, 青島守備軍からの東京帝國大學宛寄贈本と看做したうえで作業を進めることとした.<sup>13</sup> 因に, 當該歐文書籍は, 青島守備軍所製諸臺帳との對照結果に據れば, その殆どは膠州圖書館舊藏本である.<sup>14</sup>

尙, 當該歐文書籍の移管(<sup>17</sup>點/20冊)・遺失(<sup>1</sup>點/1冊)本とは如下18 點21 冊で, 上記抽出簡査の結果に據れば, 當該18 點21 冊を除く殆どの書籍は, 東京大學総合圖書館現藏の如く, 當面は推定しておく可きであろう.

- 1. “17765 □ Ferguson, Jan. H. Manual of international Law ... — A200 302 = <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 新瀧大へ管理換 58.7.14 ”
- 2. “17775 □ [Fichte] Die Bestimmung des Menschen — A200 294 = <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 昭和11年 9月 11日 倫理學研究室へ移管 ”
- 3. “17822 □ Hue de. Handbuch der Verfassung und Verwaltung in Preussen und dem deutschen Reiche. — L530 A200 13 1242 = <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 新瀧大へ管理換 58.7.14 ”
- 4. “17868 □ Heye, A., ed., Das See Bataillon 1852-1886. — A200 236 = <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 京城帝大へ移管 昭和 8.3.15. ”
- 5. “17883 □ Hubrich, Deutsches Fürstentum und deutsches Verfassungswesen. — L530 A200 16 2562 = <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 昭和 20 年 1 月 25 日 法研へ移管 ”
- 6. “17898 □ Kant I. Kritik der reinen Vernunft — A200 402 = <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 昭和 17 年 10 月 15 日 東洋文化研究所へ移管 ”
- 7. “17899 □ Kant I. Kritik der Urteilskraft — B700 A200 116 842 = <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 昭和 16 年 12 月 4 日 哲學研究室へ移管 ”
- 8. “17903 □ Kant, I. Die Religion innerhalb der Grenzen der blossen Vernunft — C000 9 = <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 昭和 16 年 9 月 4 日 哲學研究室へ移管 ”
- 9. “17934 □ Laband, P. Das Staatsrecht des Deutschen Reichs. — B530 A200 17 4068 = <sup>1</sup>/<sub>3</sub> — 新瀧大へ管理換 58.7.14 ”
- 10. “17949 □ Bismark. Fürst Bismarcks Gesammelte Reden. — M000 49 — 1 — 京城帝大へ移管 昭和 8.3.15 ”

<sup>9</sup> 志村2007., 30-1 頁, 持井・古市・Scherrmann2007., 5 頁, 脚註<sup>9</sup>.

<sup>10</sup> 具體的には如下5 書(分配先 舊號/新號 著譯者 書名). 即ち,  
“ [東大] <sup>15332</sup>/2299 Koser, R., Friedrich der Grofse.” (『膠圖藏目補』1920-22., 12 頁)  
“ [東大] <sup>15456</sup>/2312 Granier, A., Berichte aus der Berliner Franzosenzeit 1807-1809”(全, 13 頁)  
“ [東大] <sup>15462</sup>/2317 Wohlrabe, Die Freiheitskriege in Lied und Geschichte.”(全, 全)  
“ [東大] <sup>15568</sup>/2365 Brandenburg, E., Die deutsche Revolution. 1848.”(全, 14 頁)  
“ [東大] <sup>17519</sup>/2605 Bourgogne, 1812. Kriegserlebnisse.”(全, 15 頁).

<sup>11</sup> 背表紙改装本は, 震災復興支援書籍として同時期に歐米から寄贈された諸書冊に於ても頻見.

<sup>12</sup> 例えば, “17881 □ Homer. Homers Werke. von Johann Heinrich von ... Odyssee. E110 111 <sup>1</sup>/<sub>1</sub>”(“附圖・原簿<sub>3</sub>”, 158 頁; 表紙改装本).

<sup>13</sup> 尙, 當該項目初葉冒頭には“寄贈”印も所鈴.

<sup>14</sup> その概容に就ては, “獨逸租借期青島所藏書籍在日現藏豫備調査簡報(I)” (假題; 2008 年度)を請参照.

- 11.“17983 ≡ Meyer, S. Gereimte Deutsche Kaiser Chronik. — A200 137 — <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 京城大學へ移管昭和 8.3.15”
- 12.“17997 ≡ Die Nation. Wechenschrift für Politik, Volkwirtschaft und L... — A200 427 — <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 新潟大へ管理換 58.7.14”
- 13.“18034 ≡ Pieper, J. Das Reichsbeamten-gesetz v. 31. — L670 34 — L530 330 — A200 4539 — <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 新潟大へ管理換 58.7.14”
- 14.“18053 ≡ Reventlow, Graf, E. Weltfrieden oder Weltkrieg? — A200 448 — <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 京城大學へ移管 昭和 8.3.15”
- 15.“18064 ≡ Romberg, K. Kolonialbeamten-gesetz vom 8. — L670 26 — L530 333 — A200 4538 — <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 昭和 17. 10. 15”
- 16.“18085 ≡ Sch[m]oller, S. &c. Handels und Macht-politik. — A200 537 — <sup>1</sup>/<sub>2</sub> — 昭和 17. 10. 15”
- 17.“18122 ≡ Stab, R. L. Weg zum Reich-tum — E200 2715 — <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — (天)”
- 18.“18184 ≡ Wermuth, A. & Brendel, H. Börsen-gesetz — L670 23 — L550 346 — A200 4545 — <sup>1</sup>/<sub>4</sub> — 新潟大へ管理換 58.7.14”

因に、移管先(年.月.日.; 點/冊數)として記された6 部局・機関, 即ち, 東京帝國大學文學部倫理學研究室(1936.IX.11.; <sup>1</sup>/<sub>4</sub>), 全學部哲學研究室(1941.IX.4.; <sup>2</sup>/<sub>2</sub>), 全帝國大學附屬東洋文化研究所(1942.X.15.; <sup>3</sup>/<sub>3</sub>), 全帝國大學法學部研究室(1945.I.25.; <sup>1</sup>/<sub>1</sub>), 京城帝國大學(1933.III.15.; <sup>4</sup>/<sub>4</sub>), 新潟大學(1983.VII.14.; <sup>6</sup>/<sub>8</sub>)に就ても簡査を試みた。このうちの京城帝國大學(1933.III.15.; <sup>4</sup>/<sub>4</sub>)宛移管書籍現存の有無に就ては, 目下その確認の術を持たぬものの, 東京帝國大學文學部倫理學研究室(1936.IX.11.; <sup>1</sup>/<sub>4</sub>), 全學部哲學研究室(1941.IX.4.; <sup>2</sup>/<sub>2</sub>)宛移管書籍に就ては, 孰れもその後継研究室たる東京大學文學部哲學・倫理學兩研究室に於て行方不明との由乍ら(兩研究室備付カード目録にも之を缺く), <sup>15</sup> 全帝國大學法學部研究室(1945.I.25.; <sup>1</sup>/<sub>1</sub>)宛移管書籍に就ては, その後継藏書施設たる東京大學法學部研究室圖書室現藏であることを實見・確認した(K332:H879:D05 [410169911 6]; 膠州圖書館舊藏 VIII C 14731)。又, 全帝國大學附屬東洋文化研究所(1942.X.15.; <sup>3</sup>/<sub>3</sub>)宛移管書籍に就ても, その電網頁«東大 OPAC»に據れば, 當該後継部局たる東京大學東洋文化研究所に現在でも所藏されている可能性がある(●6.: S10:9:A [6480319638], ●15.: S70:6 [6480332441], ●16.: A100:12:1/2 [6480141743/648014173 5]; 改修工事中につき, 閲覽・確認は目下不能)。但, 新潟大學宛移管(1983[昭和 58].VII.14.附)書籍に就ては, 金澤大學附屬圖書館を通じて新潟大學宛問合せたところ, 上記6 點8 冊(●1., ●3., ●9., ●12., ●13., ●18.)の全てが「昨[2006(平成18)]年度既に廢棄」された旨の回答を得た。<sup>16</sup> 洵に遺憾なことで, 慚愧の念を禁じ得ぬ。

【概容簡査 2】 他方, 服部宇之吉縁を重視して, 現文學部中國思想文化學研究室藏書に就ても調べる可く, 首ぞ文學部圖書室(文學部 3 號館地下)中國思想文化學及び全中國語中國文學の書架を簡査したところ, 當該歐文書籍 7 點を搜到し(中文文<sup>6</sup>點/ 中語文<sup>1</sup>點), 兩研究室(赤門總合研究棟)の簡査に於ても, 全歐文書籍 26 點(中文文<sup>25</sup>點/ 中語文<sup>1</sup>點)を發見した。當該歐文書籍都合 33 點の圖書受入年月日は, “全學カード目録”(總合圖書館在設)に據ると, 孰れも 1924[大正 13].IX.30.附で, 東京帝大・文・原簿 1.-6.1923.-1926.(簡稱“文・原簿”; 總合圖書館現藏)の當該箇處には, 當時の“支哲文”・“支哲”<sup>所屬</sup>書籍として, 歐名書籍 60 點 61 冊(登記番號 7167-7171, 7173-7227; 16-8 頁)が, 漢名書籍 19 點 561 冊(登記番號 7150-7166, 7172<sup>17</sup>; 15-6 頁)と共に列記されていた(後掲“[東京帝國大學文學部]圖書受入原簿<sup>部分</sup>”を請参照)。

繼で, この都合 79 點 622 冊が全て青島由來の當該書籍か否かの確認とその現藏調査とを行なう可く, 調査範圍を文學部圖書室[法文 2 號館]と漢籍コーナー[赤門總合研究棟]とに擴げて實施したところ, 當該書籍のうちでその現存を確認し得たものは孰れも全當該書籍であることを, その青島所鈐藏書印に據り確認した(このうちには文學部受入後に所謂“本館備”となって附屬[現總合]圖書館宛移管された漢籍 2 點を含む)。又, 漢籍コーナーでの調査に際しては, その 1985[昭和 60]年 3 月末日時點に於る所藏清版目録たる山本・高橋 1985<sup>2</sup>(經部), 全 1988.(史部の一部)に於て, “德華高等學堂”舊藏書籍を意味する“鈐有「青島特別高等學堂藏書樓」”の註記を帶びた諸書籍(計 8 點; 山本・高橋 1985<sup>2</sup>: 66, 147, 148, 全 1988.: 1, 29, 32, 181, 182)に就ても, その現藏を確認すると共に, このうちの受入登録印の“年”を異にする“二十二史劄記及補遺”・“小學彙函”等々に就きその受入登録日を“文・原簿”に據り調べたところ, 各々 1925[大正 14].XII.23., 1926[大正 15].III.31.附(後掲“[東京帝國大學文學部]圖書受入原簿<sup>部分</sup>”を請参照)と判明した故, 更にその搜

<sup>15</sup> 兩研究室の調査に際しては, 吉田聰(哲學研究室)・朴倍暎(倫理學研究室)兩氏の御協助を得た。記して感謝の意を表したい。

<sup>16</sup> 金澤大學附屬圖書館相互利用係發新潟大學附屬圖書館宛調査依頼(2008.1.18., 25.)に對する新潟大學附屬圖書館發金澤大學附屬圖書館相互利用係宛回答(全, 全)。

<sup>17</sup> このうちの 7161-6 はその登記年月日を“九月一三日”と記すも, これは“九月三〇日”の誤記であろう。

索範圍を“支哲文”・“支哲”所屬書籍として同日受入の書籍 17 點 2976 冊(刊年及び書名から非當該書籍と判断した4點[後掲16843-5, 18928]を除く; “本館備”)となつて附屬[現總合]圖書館宛移管された書籍4點を含む)に擴大して、これを青島守備軍所製諸臺帳と對照した結果、當該諸書籍の殆どは、“德華高等學堂”舊藏書籍竝に“官有”書籍であつて、“ウキルヘルム・コーン叢書”本は含まぬことが判明した。又、偶然開帙した“皇朝經世文續編”(乙三五; に-34 頁; 當號54 頁)に於ても、その各册表紙右下隅に青島守備軍所貼整理票を見出した。<sup>18</sup> 當該“皇朝經世文續編”には東京帝國大學に於る受入登録印を缺く故、これが受入未處理本なのか、それとも受入登録を了え乍らもその登録印のみ未鈐なのか未精査乍ら、今この“皇朝經世文續編”を略々同時期に於る文學部受入本と假定して算入するならば、震災後に文學部に於て受入登録された當該書籍數は、今のところ都合96點(東京帝國大學側での數値)ということになる。

この96點のうちの81點の書籍に就ては、その現藏を確認済みである。爾餘の15點(7169, ~~7170~~, 7176, ~~7181~~, 7187, ~~7189~~, 7193, 7206, 7213, ~~7214~~, 7217, ~~7224~~, 7226, ~~7227~~, ~~18925~~ [本館備])に就ては、今回未搜到乍ら、このうちの7點(7169, 7176, 7187, 7193, 7206, 7213, 7217)に就ては、東大中哲中文研書目1965.(1962 [昭和32].III.現藏)に同一諸書名が登録されているので、諸般の事情を勘案するならば、全書目所録7點は、孰れも青島由來の當該書籍であつて、少くとも1962年3月迄は中國哲學中國文學研究室に所藏されていたと看做しておいて大過なからう。又、遺る8點のうちの歐文書籍7點に就ても、~~7170~~ (官洋一三五二; 『函書・圖目』1920., い-183 頁), ~~7189~~ (官洋一四八六<sup>ab</sup>; 全, い-196 頁), ~~7224~~ (官洋一四八八; 全, 全), ~~7227~~ (官洋一五〇三; 全, い-197 頁)の4書に就ては、青島守備軍所製臺帳上にその書名を容易に見出し得ることに加え、『函書・圖目』1920.の當該箇處の前後に登載された諸書が東京大學現藏であるという狀況に據れば、この歐文書籍4點に就ても、當面は青島由來の當該書籍と看做す可く、更には、最後に遺つた4點(歐文書籍3點:7187, ~~7214~~, 7226; 漢籍1點:18925)に就ても、今後に於る豫備調査・本格調査に備えるという觀點に立つならば、孰れも青島由來の當該書籍と看做したうえてその搜書に當るのが、當面は最も實際的な手法と思考する。

但、この96點という數値は東京帝國大學側の算え方に據るもので、青島守備軍側の算え方に據ると、その數は少くとも133點となる。簡査時に確認した限りでも、例えば東京帝大側の“7153 □ 史通削繁”・“7154 □ 文心雕龍”は、青島守備軍側に於る“史通削繁 (文心雕龍)”(乙八九; 『函書・圖目』1920., に-21 頁; 當號51 頁)であり、全“1686046 支哲 二十四史”には、全“史記”(乙九二; 全, 全20 頁; 當號51 頁), “前漢書”(乙一〇六; 全, 全22 頁; 全), “後漢書”(乙一〇七; 全, 全; 全), “三國志”(乙一一一; 全, 全; 全), “魏書”(乙八四; 全, 全; 全), “晉書”(乙八三; 全, 全; 全), “北史”(乙一〇四; 全, 全; 全), “南史”(乙九一; 全, 全; 全), “陳書”(乙一〇八; 全, 全; 全), “周書”(乙八七; 全, 全; 全), “梁書”(乙一一五; 全, 全; 全), “舊五代史”(乙九〇; 全, 全; 全), “五代史”(乙七三; 全, 全; 全), “舊唐書”(乙八〇; 全, 全23 頁; 全), “唐書”(乙八一; 全, 全; 全), “宋書”(乙八五; 全, 全; 全), “宋史”(乙六八; 全, 全; 當號52 頁), “遼史”(乙一一八; 全, 全; 全), “金史”(乙七〇; 全, 全; 全), “元史”(乙六九; 全, 全; 全), “明史”(乙七一; 全, 全; 全)の21 點を少くとも含み,<sup>19</sup> 全“16847 支哲 纂要十三經注疏 附校勘記”には、全“毛詩注疏”(乙四八; 全, 全4 頁; 當號46 頁), “禮記注疏”(乙四二; 全, 全; 全), “周易注疏 (經典釋文)”(乙七七; 全, 全12 頁; 當號48 頁), “周禮注疏”(乙一〇五; 全, 全; 全), “孟子注疏(四庫全書)”(乙一一一; 全, 全; 全), “孝經注疏 (前漢書注疏)”(乙七五; 全, 全14 頁; 當號49 頁), “春秋左傳[注]疏”(乙四九; 全, 全17 頁; 當號50 頁), “儀禮注疏”(乙九四; 全, 全19 頁; 全), “公羊注疏”(乙七八; 全, 全20 頁; 當號51 頁), “穀梁注疏(四庫全書)”(乙一一九; 全, 全; 全), “爾雅注疏”(乙六五; 全, 全36 頁; 當號55 頁)の11 點を少くとも含み,<sup>20</sup> 全“16848 〃九通”は、全“通志”(乙一二; 全, 全18 頁; 當號50 頁), 全“文獻通考”(乙一一; 全, 全; 全), 全“通典”(乙一〇; 全, 全; 全), 全“皇朝通典”(乙九七; 全, 全20 頁; 全), 全“欽定續通典”(乙九八; 全, 全; 當號51 頁), 全“皇朝通志”(乙九九; 全, 全; 全), 全“欽定續通志”(乙一〇〇; 全, 全; 全), 全“皇朝文獻通考”(乙九五; 全, 全; 全), 全“欽定續通考”(乙九六;

<sup>18</sup> 當項竝に前掲山本・高橋1985<sup>2</sup>, 全1988.に就ては、石川 洋氏の御教示に據る。記して感謝の意を表したい。

<sup>19</sup> 或は同類かと疑う“南北齊書”(乙六三; 全, に-17/18 頁; 當號50 頁; 或は東文中哲中文研書目1965., 14/15 頁), “隋書”(乙六二; 全, に-18 頁; 全; 或は全15 頁)に就ても搜したが、今回簡査時、近傍書架上では未搜到。

<sup>20</sup> 或は同類かと疑う“尚書注疏”(乙七六; 全, に-12 頁; 全48 頁)に就ても搜したが、今回簡査時、近傍書架上では未搜到。

全、全; 全)より成る。<sup>21</sup>

如上96点(青島守備軍側の算え方では130餘点)の諸書に就ては、1926[大正15].III.31.附受入登録の”廣雅叢書”(18921)を始めとする7点(寄贈書扱いされているのみで(寄贈主名は不記)、他に青島守備軍からの寄贈品であることを明示する痕跡は未捜到乍ら、<sup>22</sup> 調査の現状に於ては、當該書籍の全てを青島守備軍からの寄贈本の如く假定して、作業を續行する他あるまい。又、96点(全前130餘点)なる受入登録書籍數及びその現藏確認書籍數81点(全前110餘点)に就ては、如上の如き手順で簡査した結果であつて、例えば中國思想文化學研究室及び漢籍コーナーの書架竝に未配架本(赤門總合研究棟への移轉に起因)を精査すれば、その數は稍々増加するものと思考する。

【簡査後記】 今回の概容調査簡報は略々叙上に盡るが、贅言する迄もなく、當簡報は基本的に震災後の附屬圖書館及び文學部(“支哲文”・“支哲”所屬)受入登録本に就ての簡査報告に終始しており、震災前の受入登録本に就ては未着手である。又、文學部所屬の他學科及び例えば法學部を始めとする他學部に於る受入登録が別途行なわれていた場合には、これに就ても未着手ということになる。震災前の受入登録簿に就ては、附屬圖書館用・各學部用のものを問わず、その保管場所たりし附屬圖書館被災時に焼失したとの由故、<sup>23</sup> 今では後年所製の焼殘本(洋書)1939、<sup>24</sup> 燒殘本(和書)1939<sup>25</sup>、燒殘本文・醫(和洋)1929<sup>26</sup>に基いてその痕跡を辿る他ないが、これに就ても未着手である。

東京帝大五十年史<sub>上下</sub>1932に收載された全帝大の震災前・後に於る“平面圖”(1921[大正10]・1927[昭和2])に據れば、附屬圖書館と文學部棟が一定の距離を隔てて南北に隣合う配置は基本的に相同で、圖書館が震災後にその位置を僅かに南遷・擴張したものの、その基本的配置關係に就ては現在に至る迄不變である。附屬圖書館の被災に就ては、南に一棟隔てた醫學部醫化學教室からの出火を受けての類焼による全焼との由乍ら、<sup>24</sup> 附屬圖書館の北に位置していた文學部關聯の建物(1921[大正10]用“平面圖”に於る“法文科學教室”・“法文科學事務室”・“法科學及文科學”)とその藏書の具體的被災狀況に就ては、未精査の所爲もあつて、今のところ不詳である。

東京帝大宛“ウキルヘルム・コーン叢書”を積載した福岡丸の青島離港を1922[大正11]年5月1日とする陸軍次官發外務次官宛回答、<sup>25</sup> 及び青島守備軍から東北帝大宛寄贈書籍の受入登録が1922[大正11]年9月に行なわれたとする記事に據れば、<sup>26</sup> 當該書籍は震災(1923[大正12].IX.1.)前に東京帝大宛到着していたものと看る可く、又、『膠圖藏目補』1920-22に於て東京帝大宛と明記された書籍(50餘点)のうちの抽出調査した5書の孰れもが、“附圖・原簿<sub>3</sub>”に於て1925[大正14].X.30.附で受入登録されていることに據れば、<sup>27</sup> 少くとも當該5書は、青島守備軍による他機關宛寄贈と何ら異なることなく、震災前に東京帝大宛寄贈された諸書として、當面は看做しておく可きであらう。<sup>28</sup> 但、孰れにしても如上簡査による既發見書籍點數(都合約700點)は、少な過ぎるとの印象が強い。“ウキルヘルム・コーン叢書”も未發見であり、今後の豫備・本格調査に備えて更なる精査を行なう必要を痛感している。

尚、今回の東京大學に於る概容調査に際しては、原香壽子・椛島納山・田川ひで(總合圖書館)、風卷みどり・和田洋一(文學部圖書室)、吉田聰(文學部哲學研究室)・朴倍暎(全倫理學研究室)・春原由樹(全中國思想文化學研究室)、竝に石川洋(全漢籍コーナー)の諸氏を始めとする各位の御協助を得た他、村松伸氏(生産技術研究所)の御高配にも與つた。擲筆に當り、その旨を記し、各位に對して衷心より感謝の意を表したい。

<sup>21</sup> 當“九通”の構成に就ての最初の示唆は、石川洋氏から得た。記して感謝の意を表したい。

<sup>22</sup> 尚、「挿圖2」(當號69頁)の如き紙片を各册末葉とウラ表紙との間に挟む漢籍を數見したが、孰れも貼附された形蹟は無く、受入登録印の形狀の油染を帯びた紙片も有る故、當該紙片は、受入登録印用の吸取紙と暫時推定。

<sup>23</sup> 原香壽子氏の御教示に據る。

<sup>24</sup> 東京帝大五十年史<sub>下</sub>1932、1116頁。

<sup>25</sup> 「大正八年以降函獲書籍」所綴“在青島舊獨逸圖書館書籍讓渡方ニ關スル件”(持井・古市・Scherrmann 2007、26頁、脚註<sup>150</sup>)。

<sup>26</sup> 官報<sup>3066</sup>1922[大正11].X.19[木]、463頁[彙報・學事](持井・古市・Scherrmann 2007、5頁、脚註<sup>9</sup>)。

<sup>27</sup> 舊號<sup>15332</sup>/新號<sup>2299</sup>: 登錄號17919、舊號<sup>15456</sup>/新號<sup>2312</sup>: 登錄號17823; 舊號<sup>15462</sup>/新號<sup>2317</sup>: 登錄號18198; 舊號<sup>15568</sup>/新號<sup>2365</sup>: 登錄號17695; 舊號<sup>17519</sup>/新號<sup>2605</sup>: 登錄號17690。

<sup>28</sup> 尚、既に指摘した“皇朝經世文續編”(乙三五; に-34頁; 當號54頁)に就ては、この觀點からも要精査。

[東京帝國大學文學部]圖書受入原簿部分(斜字體及び“√”印は鉛筆書を表し、ゴシック體は朱色を示す)

大正十三年

15

年月/日	登記 番號	所屬	圖書題名	図書 番號	類別	數量	備考
九/三〇	7131	史料	國崩石火失集 寫本		□ 嶽事	1/1	和1↓
(中略)							
	7150	支哲	歷代帝王年表 咸豐五		□ 歷史	1/3	
	7151	□	歷代史論 光緒一三		□ //	1/100	
	<del>7152</del>	<del>□</del>	<del>讀史拾遺 光緒一七</del>	<del>□</del>	<del>本館備</del>	<del>1/2</del>	<del>G30-1234</del>
	7153	□	史通削繁 道光一三		□ //	1/4	
	7154	□	文心雕龍 //		□ 文學	1/4	
	7155	□	重刊正誼堂全書及續 同治五至光緒一三		□ 哲學	27/159	
	7156	□	五禮通考 光緒六		□ //	1/100	
	7157	□	讀禮通考 光緒七		□ //	1/32	
	7158	□	宋文鑑 光緒一二		□ 文學	1/24	
	7159	□	欽定三禮義疏 同治七		□ 哲學	1/84	
	7160	□	二十二史劄記及補遺 光緒二〇		□ 歷史	1/10	和522↓ 和711 和7526 和815 和83

16

年月/日	登記 番號	所屬	圖書題名	図書 番號	類別	數量	備考
九/十三	7161	支哲	元和郡縣圖志及補志 卷1-27 卷28-40 光緒六		□ 地理	1/8	本館備
	7162	□	元豐九域志		□ //	1/9	
	7163	□	通鑑地理通釋		□ //	1/3	
	7164	□	御纂性理精義 康熙五六		□ 哲學	1/6	
	7165	□	故唐律疏議 光緒一七		□ 法律	1/8	
	7166	□	近思錄補註		□ 哲學	1/4	和38,
√九/三〇	7167	//	Der Ferne Osten, Bd. 3. Hft., 1-8. Schanghai 1905		□ Geogra.	1/1	
	7168	□	Begründung zum Deutsch-Chinesischen Hander[?]svertrag. 1903.		□ Politic	1/1	
	7169	□	Rohrbach, Deutsch-Chinesische Studien. 1909.		□ //	1/1	
	<del>7170</del>	<del>□</del>	<del>Schlegel, Histoire de la prostitution en Chine. 1880</del>	<del>□</del>	<del>Soc. Scie.</del>	<del>1/1</del>	
	7171	□	The anti-foreign riots, in Chinas[s] in 1891. 1892.		□ Hist.	1/1	
	7172	□	詩歌集錦 光緒二五		□ 文學	1/1	
	7173	□	Zi, Etienne, Pratique des examens litteraires en Chine, 1894.		□ Educat.	1/1	
	7174	□	Gander, Le canal imperial. 1894.		□ Hist.	1/1	
	7175	□	Stenz, Beiträge zur Volkskunde C[€S]üdSchantungs. 1907.		□ Geogr.	1/1	
	7176	□	Ku Hung-Ming, Chinas Verteidigung gegen Europo[œä]ische Ideen. 1911.		□ Politic	1/1	
	7177	□	Seidel, Systematisches Wörterbuch der Nordchinesischen ...		□ Lang.	1/1	
	7179	□	The Canton miscellany. 1831.		□ Geogra.	1/1	
	7179	□	Mayer, ed. Treaties between the Empire of China and foreign powers. 1897.		□ Politic	1/1	
	7180	□	Ruhrstrat, Aus dem Lande der Mitte.		□ Geogra.	1/1	
	<del>7181</del>	<del>□</del>	<del>Tschuang-Tse. Reden und Gleichnisse des Tschuangtse. 1910.</del>	<del>□</del>	<del>Philoso.</del>	<del>1/1</del>	
	7182	□	Tchen-Ki-tong, Bits of China. 1890.		□ Geogra.	1/1	
	7183	□	Allen, The siege of the Peking Legations Being the diary. 1901.		□ Hist.	1/1	
	7184	□	Ball, Things Chinese; or, Notes connected with China. 1904.		□ Geogra.	1/1	
	7185	□	Brandt, Sittenbilder aus China. 1900.		□ //	1/1	
	7186	□	Brine, The Taeping rebellion in China; .... 19[98]62.		□ Hist.	1/1	
	7187	□	Cornaby, China under the search-Light. 1901.		□ Geogra.	1/1	

- 7188 □ Davis, The Chinese: A general discription of the Empire of China .... 1836. □ " 1/1  
 ✓ 7189 ~~□ Douglas, Society in China. 1895. □ Soci-Seie. 1/1~~  
 7190 □ Faber, A systematical digest of the Doctorines of Confucius.... 1875 □ Philoso. 1/1

洋23 所屬不明 和

17

年月/日	登記 番號	所屬	圖書題名	圖架 番號	類別	數量	備考
九/三〇	7191	支哲	Forsyty[ <del>yh</del> ], ed. The China martyrs of 1900. 1904.	□	Hist.	1/1	
	7192	□	Franke, Beschreid[ <del>eb</del> ]und des Jehol-Gebietes in der p[ <del>p</del> ]rovinz Chihli. 1902.	□	Geogra.	1/1	
	7193	□	Franke, Die deutsche[ <del>e</del> ]-chinesische Hochschule in T[s]jingtau. 1910.	□	Educat.	1/1	
	7194	□	Giles, China and the Chinese. 1902.	□	Geogra.	1/1	
	7195	□	Giles, A chinese biographical dictionary.(古今姓氏族籍譜) 1898.	□	Biogra.	1/2	
	7196	□	Halcombe, Children of far Cathay. 1906.	□	Litir.	1/1	
	7197	□	Giles, Glossary of reference on subjects connected with the Far East. 1886.	□	Gene. Works	1/1	
	7198	□	Hirth, Chinesische Studien. Bd. 1. 1890.	□	Hist.	1/1	
	✓ 7199	<del>□</del>	<del>Hoffmeister, Meine Erlebnisse in China. 1903.</del>	<del>□</del>	<del>Geogra.</del>	<del>1/1</del>	
	7200	□	Hosie, Three years in Western China; A narrative of three Journeys .... 1897.	□	"	1/1	
	7201	□	Johnston, Lion and dragon in Northern China. 1910.	□	"	1/1	
	7202	□	Macgowan, Chinese Folk-Lore tales. "	□	Liter.	1/1	
	7203	□	Macgowan, Sidelights on Chinese life. 1907	□	Geogra.	1/1	
	7204	□	Martin, A cycle of Cathay, or, China, south and north. 1897	□	"	1/1	
	7205	□	Mootz, Die chinesische Weltanschauung. 1912.	□	Philos.	1/1	
	7206	□	Schmidt, Die orientalischen Literaturen. 1906.	□	Lit.	1/1	
	7207	□	Wassiljew, Die Erschliessung Chine[ <del>ea</del> ]se[ <del>e</del> ]. 1909.	□	Hist.	1/1	
	7208	□	Tschepe, Heilichtümer des Konfuzianismus in Kü-Fu und Tschou-Hien. 1906.	□	Geogra.	1/1	
	7209	□	Chuang Tzu, Dschuang Dsi.(莊子南華真經). 1912.	□	Philos.	1/1	
	7210	□	Royal Asiatic Society. Journal of the North-China Branch. 1882.	□	Geogra.	1/1	
九/三〇	7211	支哲	Der Ferne Osten, Bd. 3. Hft. 1-8. 1905.	□	Geogra.	1/1	
	7212	□	Couvreur, Diction[n]aire chinois-francais. 1890.	□	Lang.	1/1	
	7213	□	Favier, Péking. Histoire et description. 1897.	□	Geogra.	1/1	
	✓ 7214	<del>□</del>	<del>Gaillard, Croix et swastika en China[<del>ae</del>]. 2 ed. 1906.</del>	<del>□</del>	<del>Hist.</del>	<del>1/1</del>	
	7215	□	Deutsche Vereinigung Schanghai. Di[ <del>ie</del> ]nkschrift zur Förderung des Deutschums ....	□	Politic	1/1	
	✓ 7216	<del>□</del>	<del>Orientalisches Archiv. Illustru[ui]erte Zeitschrift für Kunst, .... 1911-1912</del>	<del>□</del>	<del>Geogra.</del>	<del>1/1</del>	
	7217	□	Havret, La stèle chretienne de Si-Ngan-Fou. 1895.	□	Religion	1/1	
	7218	□	Couvreur, Les Quatre Livres.(四書). 1895.	□	philos.	1/1	
	7219	□	Couvreur, Chou King.(書經). 1897.	□	"	1/1	
	7220	□	Couvreur, Cheu King.(詩經). 1896.	□	Lit.	1/1	洋31

18

年月/日	登記 番號	所屬	圖書題名	圖架 番號	類別	數量	備考
九/三〇	7221	支哲	Couvreur, Li Ki(禮記). ou. Memoires sur les Bienseances .... 1899.	□	Philos.	1/2	
	7222	□	Couvreur, Diction[n]aire Ch[ <del>h</del> ]assique de la langue. 1904.	□	Lang.	1/1	
	7223	□	Le C[ <del>E</del> ]gall, Le philosophe Tchou Hi,(朱熹) sa docto[ <del>e</del> ]rine, son influence. 1894.	□	Philos.	1/1	
	✓ 7224	<del>□</del>	<del>Parker, Chinese customs. 1899.</del>	<del>□</del>	<del>Geogra.</del>	<del>1/1</del>	
	7225	□	Alexander, <u>Lão-Tsze</u> , the great thinker. 1895.	□	Philo.	1/1	



7226	□	Wilhelm, Die Beziehungen Chinas zum Ausland .... 1909.	□	Politik.	1/1	
√ 7227	□	Weig, Wie die Chinesen sterben und begraben werden. 1906.	□	geogra.	1/1	洋8√
一〇/一		7228 史料 樂翁公遺書 明治二六	□	總記.	1/3	

大正十四年

23

年月/日	登記 番號	所 屬	圖書題名	図書 番號	類 別	數 量	備 考
------	----------	--------	------	----------	--------	--------	--------

(前略)

一三/二三	16843	支哲文	支那 滿洲 亞東指要 大正一四	□	地	1/1	
	16844	〃贈	東洋文庫論叢 第2, 第3 亡失 大正一三至一四	□	總	4	本館備 55.6.20 Ca80001
	16845	〃〃	一誠堂古書籍目錄 大正一四	□	〃	1/1	和6√
一七/二〇	1684660	國語贈	Imbe-no Hironari. Kogoshui (古語拾遺). 2 <sup>ed</sup> 1925	□	Hist	1/1	十五行下欄ト番號 洋√ 入レ替ヘ訂正又
一三/二三	16847	支哲	十三經注疏 附校勘記 光緒一八	複本	6083	支哲	1461 支哲文ヨリ移管 昭和 10.6.14.
	16848	〃	九通 咸豐九 光緒八, 一二至一三	□	法	1/792	
	16849	〃	五朝聖訓	□	〃	47	本館備 53.6.15
	16850	〃	上古三代秦漢三國六朝文 光編[編緒]二七	□	漢文	1/100	
	16851	〃	明文在 光緒一五	□	〃	1/10	
	16852	〃	唐文粹 〃 九	□	〃	1/16	
	16853	〃	十七史商權[權權]及目錄 〃 一九	□	歷	1/14	
	16854	〃	大學衍義及同補 同治一三	□	支哲	1/16	
	16855	〃	二十二史劄記及補遺 光緒二〇	□	歷	1/10	和1,005√
一七/二〇	16856	史學	Rockow, L. Contemporary political thought in England. 1925.	□	Pol.	1/1	

(中略)

一三/二三	1686046	支哲	二十四史 同治一〇至一三 光緒元, 三, 二	□	歷	1/1490	十五行上欄ト番號 和1,490√ 入レ替ヘ訂正又
一七/二〇	16861	國語贈	大日本古文書 幕末外國關係文書之一八, 大正一四	□	Hist	1/1	

大正十五年

92

年月/日	登記 番號	所 屬	圖書題名	図書 番號	類 別	數 量	備 考
------	----------	--------	------	----------	--------	--------	--------

三/三一	18911	史料	沂州府志 乾隆三五序	J50 475	地	1/12	本館備 昭51・9・17・
------	-------	----	------------	------------	---	------	---------------

(中略)

三/三一	18921	支哲贈	廣雅叢書 光緒一二至一五	□	總	1/80	
	18922	〃	小學彙函	□	語	1/34	
	18923	〃	新鐫經苑 咸豐元	□	支那哲	(1)/64	
	18924	〃	古經解彙函	□	〃	(1)/33	
	18925	〃	欽定四經	□	〃	67	本館備 55.6.20 Ca80001
	18926	〃	四書經註集證 嘉慶三	□	〃	1/16	
	18927	〃	太平寰宇記 第四卷缺 光緒八	□	地	26	本館備 55.6.20 Ca80001
	18928	〃	日本名家 四書註釋全書 大正一四	□	支那哲	(1)/2	

(後略)

(2006.XII.5.初稿, 2008.II.10.校了・追記)

(本稿は“青島鹵獲書籍の復元と清末民國初における獨英の對中國文化接觸に關する比較研究”(課題番號:17320091;平成17-19[2005-7]年度科學研究費補助金«基盤研究(B)»;研究代表者:持井康孝),及び“近世中國の裁判關係文書の研究”(課題番號:17520472;平成17-19[2005-7]年度科學研究費補助金«基盤研究(C)»;研究代表者:岩井茂樹)の成果の一部である.)